検証まとめ
（児童館再編に係る作業部会）

児童館再編について

ア　これまでの再編の取組

①　杉並区の児童館の活動内容等の変遷

○　杉並区における最初の児童館は、昭和 41 年（1966 年）に建設されました。

○　その後、昭和 40 年代に 16 館が、昭和 50 年代に 20 館が、平成 3 年（1991 年）までに 4 館が建設され、合計 41 館が開設し、概ね小学校の通学区域に 1 館ずつ整備されました。

○　並行して、学童クラブの拡張整備（学校内から児童館内への移転）も進められました。

○　また、児童館は中学生や高校生にとって広さや設備が十分ではないため、中・高校生のための大型の児童館を建設することになり、平成 9 年（1997 年）に「ゆう杉並（児童青少年センター）」が誕生しました。

○　この間、社会状況や区民ニーズ等の変化に対応するため、開館日や開館時間をはじめとする活動内容の変更を繰り返してきましたが、大きな変革として主に以下の点が挙げられます。

- 学童クラブを館内へ移転（1969 年～）
- 中・高校生の居場所の充実に向けて
  地域児童館の整備（1982 年～）、ゆう杉並の整備（1997 年）
  地域中・高校生委員会の取組（2002 年～）
- 子育て支援の充実に向けて
  ゆうキッズ事業（2001 年～）
- 運営の充実に向けて
  学童クラブ育成時間の延長（2007 年～）
  杉並区立児童館運営指針の策定とこれに基づく児童館運営（2008 年～）
  ※　「杉並区立児童館運営指針」（47 ページ参照）は、国の「児童館ガイドライン」発出（2011 年）以前に策定したものだが、同ガイドライン（2018 年改定を含む）が示している機能・役割を国に先行して網羅している。

【国の動き（児童館の歴史）】

○　日本における児童館建設の歴史は、昭和 23 年（1948 年）に始まる。

○　戦後、子どもを守るための法律である「児童福祉法」が制定（昭和 23 年（1948 年）施行）され、この法律の中で、地域の子どもの健全育成活動を行う施設として「児童館」が初めて規定される。

○　児童福祉法では、児童館は児童厚生施設という児童福祉施設に分類され、利用できる児童を制限せず、すべての児童（0 歳～18 歳未満の子ども）を対象に、「児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、又は情操をゆたかにすることを目的とする施設」とされた。

○　児童福祉法が制定された年に、この法律に基づく日本最初の児童館が東京都港区にオープンしたが、児童館の施設数は大きく増えず、全国で数十か所程度に留まった。その後、昭和 30 年代（1960 年頃）に入ると、日本は、戦後の復興期から、高度経済成長期と呼ばれる時代に入り、このあたりから、児童館が

増えていくこととなる。

○　日本の高度経済成長は、都市化（都市への人口集中）と、それに伴う核家族化や共働き世帯の増加、交通事故に遭う子どもの増加、空き地（子どもの遊び場）の減少など、様々な社会問題ももたらし、子どもの安全な遊び場（居場所）としての「児童館」が社会的に再注目されることになった。

○　国による整備補助や運営補助も後押しし、全国で急速に児童館の建設が進められることになったが、児童館設置の義務化はされず、また、運営補助が一般財源化されるなどの背景もあり、地域の実情によって取組は異なることになった（現在においても、全国の約 4 割の区市町村（自治体）には児童館が整備されていない。）。

○　また、児童館はすべての児童（0 歳～18 歳未満の子ども）を対象にした児童福祉施設であるが、当時の国の考え方は、安全への配慮が特に必要と考えられる「幼児～小学生低学年」が利用することを想定していたため、多くの児童館が、小さな子どもに合わせたサイズで整備された。

○　その後、国は、社会状況の変化とともに、児童館の設置運営要綱等において、児童館を社会資源として積極的に活用する動きを展開してきた。

「昼間留守家庭となる児童への対応」　1970 年代頃～

- 核家族化や共働き世帯の増加等により、学童クラブ事業を児童館で実施

「体力増進と年長児童への対応」　1980 年代頃～

- 運動機会の充実や中・高校生世代の居場所づくりの必要性から、体育室等を備えた大型児童センターの整備

「子育て支援機能」の追加　2000 年

- 少子化対策・子育て支援の充実が求められる中、児童館における子育て支援の強化

○　こうした動きを経て、国は、児童館に期待する役割を明示した「児童館ガイドライン」を 2011 年に発出した。その後、改正された児童福祉法の理念との整合を図るとともに、少子化、ひとり親家庭増加、地域関係の希薄化等の社会状況の変化への対応や児童虐待、子どもの貧困など、子どもや子育て家庭が抱える課題の多様化・複雑化への対応等、児童館がより包括的な支援の拠点となることを期待し、2018 年に「児童館ガイドライン」を改定している。

○　また、国は、2023 年 3 月、社会保障審議会児童部会の放課後児童対策に関する専門委員会において、「こどもの居場所としての児童館機能・役割の強化」等に言及した「放課後児童クラブ・児童館等の課題と施策の方向性」をとりまとめている。

○　そして、2023 年 4 月には、内閣府の外局としてこども家庭庁を設置し、「こどもの居場所づくり」の推進に向けて、年内にも、「こどもの居場所づくりに関する指針（仮称）」を策定する予定としている。

② 杉並区の児童館が抱える課題と対策

○ 杉並区の児童館は、子育てに不安や負担を感じる親の増加、子ども同士や異年齢者との交流機会の減少、子どもの安全を脅かすような事件の多発など、子どもと子育てを取り巻く環境の変化に対応できるよう、創意工夫を重ねながら運営を行ってきました。

○ その一方で、次のような課題が生じています。

- 小学生が安全に過ごせる居場所が強く求められているが、学童クラブ需要の増大により、一般来館の小学生が利用しにくい状況があること。
- 実質的に学童クラブを含む小学生が主たる利用層となるため、乳幼児親子及び中・高校生の多様なニーズに十分応えられないこと。
- 設備面においても、狭あいな施設が多く、多様なニーズにきめ細かく対応することには限界があること。
- 施設の老朽化が深刻になっていること。

○ こうした課題がある中、今後も増大が見込まれる学童クラブ需要への対応や子育て支援施策の強化等に対応するためには、児童館という限られたスペースでは限界があること、また、深刻化する施設の老朽化にも対処していく必要があることから、区立施設再編整備の中で児童館再編の取組を進めることとしました。

③ 児童館再編の取組

○ 児童館再編の取組は、乳幼児、小学生、中・高校生それぞれの発達段階や年齢層ごとに異なる多様なニーズに対応し、児童館が担ってきた機能・役割を継承・発展することができるよう、それぞれの発達段階に応じた児童館にかわる新しい子どもの居場所づくりを進めるものとして、平成 26 年度に計画化し、この間、段階的に取組を進め、区内約 3 分の 1 の地域で実施しています。

○ 具体的には、行動範囲が限られる小学生の身近な居場所機能は、小学校施設を活用すること、乳幼児親子の居場所機能は、子育て支援に特化した施設を新たに整備すること、中・高校生の居場所機能は、ゆう杉並の充実を図りつつ、新たな居場所づくりを進めることとして、次の取組を基本に展開してきました。

再編前		再編後
児童館	➡	児童館跡地は他の用途等に転用
○ 小学生の居場所 一般来館 学童クラブ	 ➡ ➡	○ 学校施設を活用 放課後等居場所事業※1 を実施 学童クラブを整備
○ 乳幼児親子の居場所 ゆうキッズ	➡	○ 子ども・子育てプラザ※2 を整備
○ 中・高校生の居場所	➡	○ 中･高校生の新たな居場所づくり※3 の取組 （コミュニティふらっと永福の取組） ○ ゆう杉並の充実

※1 放課後等居場所事業とは

・ 児童館の小学生の居場所（一般来館）としての機能を継承・発展するものとして、現在、14 小学校で実施している。

・　杉並区独自の事業として、区内の小学校において、放課後等に学校施設を活用し、小学生の安全・安心な居場所を提供するとともに、保護者や地域住民の参画を得て、遊びや学習、スポーツ、文化・創作活動、交流活動などの取組を通して、子どもの自主性や社会性、創造性を育むとともに、子どもが地域社会の中で健やかに成長できる環境づくりを推進することを目的としている。

※2　子ども・子育てプラザとは

・　乳幼児親子を主たる利用対象に、子ども・子育て支援法に基づく子育て支援サービス・事業を総合的・一体的に行う地域子育て支援拠点として、現在、6 地域に 6 施設を設置している。

・　令和 5 年 9 月に高井戸地域への新規開設を予定しており、これにより 7 地域 7 施設の設置となる。

・　なお、これまでの区立施設再編整備計画では、7 地域に各 2 所（計 14 所）の整備を計画していた。

・　主要事業として、「地域子育て支援拠点事業（子育てひろば）」、「利用者支援事業（利用相談）」、「一時預かり事業（一部プラザを除く。）」を実施している。

・　また、児童厚生施設として小学生以上の居場所を補完する機能を有している。

※3　中・高校生の新たな居場所づくりとは

・　ゆう杉並のような専用施設としてではなく、コミュニティふらっと永福のラウンジ等を活用して、中・高校生が気軽に集い、交流ができる居場所づくりを進めている。

・　この取組は、「ティーンズタイム」という呼称で、コミュニティふらっと永福の指定管理者の自主事業として実施し、主な取組として、「ラウンジ内の優先利用スペースの設定」、「多目的室等を無料で利用できる日時の設定」、「中・高校生向け図書コーナーの設定」が行われている。

・　なお、コミュニティふらっとは、区立施設として、地域住民が文化や趣味等のグループ活動に利用できるほか、講座や多世代交流イベントへの参加を通じて、身近な地域住民が集い、世代を超えて交流する場となることを目的としている。

○　これまで（平成 28 年度～令和 4 年度）に行った児童館再編の取組状況は、下表のとおりです。

【箇所数】

再編の取組前（平成 26 年度時点）		現在（令和 4 年度時点）		増減
児童館	41	児童館	27	▲ 14
学童クラブ		学童クラブ		
児童館内	39	児童館内	25	▲ 14
学校内（隣接地含む）	10	学校内（隣接地含む）	24	14
その他区有地	1	その他区有地	1	
		放課後等居場所事業	14	14
		子ども・子育てプラザ	6	6
ゆう杉並	1	ゆう杉並	1	
		中・高校生の新たな居場所	1	1
計	92		99	7

※　学童クラブは、児童館内の第二学童クラブとして設置されている学童クラブを含む。

【利用者数】

◆1所1日平均利用者数

	平成16年度		平成26年度		令和4年度		
	児童館		児童館		児童館	子ども・子育てプラザ	放課後等居場所事業
箇所数	41	➡	41	➡	27	6	14
乳幼児	15.9	➡	19.1	➡	10.9	58.8	
小学生（学童クラブ除く）	32.7	➡	28.0	➡	22.6	3.3	32.4
中学生	3.5	➡	2.4	➡	1.6	0.4	
高校生	0.7	➡	0.6	➡	0.1	0.1	

◆学童クラブ

		平成16年度		平成26年度		令和4年度
箇所数		47	➡	50	➡	50
登録児童数		2,421	➡	3,621	➡	5,490
延出席人数（1所1日平均）	平日	36.4	➡	50.9	➡	73.4
	土曜日	3.3	➡	5.3	➡	4.8

④　児童館再編の検証と今後のより良い子どもの居場所のあり方の検討

○　長い歴史を持つ杉並区の児童館は、全国的にも先進事例となるような活動を展開し、杉並区における子どもの居場所の一翼を担ってきました。

○　児童館が展開してきた活動は貴重な財産であり、児童館再編の取組により展開した居場所（以下、「再編による居場所」という。）において、その機能・役割をしっかりと継承・発展することを命題にして児童館再編の取組を計画的に進めてきたところです。

○　計画策定時のパブリックコメントや説明会の開催など、保護者や学校・地域関係者等の意見を伺いながら進めてきましたが、この間、事前の意見聴取や計画策定に至るまでのプロセスへの住民参画が不十分ではないかといった意見や、児童館は存続すべきであるといった意見、他の手法で課題解決を図るべきであるといった意見、また、当事者である子どもからも児童館を残してほしいといった意見があるなど、計画に対する様々な意見がありました。

○　こうしたことから、今般、休止が困難なものを除き、基本的には取組を一旦休止し、これまでの取組を検証することとしました。

○　また、この検証結果を踏まえて、令和6年度に向けて、今後のより良い子どもの居場所のあり方を検討していくこととしました。

○　今般行った児童館再編の検証については、次項以降、「イ　検証の視点」、「ウ　情報の整理・分析」、「エ　検証結果」という形でまとめています。

イ　検証の視点

①　検証の基本的な考え方（検証項目）

○　再編による居場所において、「児童館の機能・役割が継承・発展されているかどうか」を検証項目としています。

再編による居場所（継承先）
（小学生の居場所） 一般来館の部分：放課後等居場所事業 学童クラブの部分：校内等への移転の取組
（乳幼児親子の居場所） 子ども・子育てプラザ
（中・高校生の居場所） 中・高校生の新たな居場所づくりの取組（コミュニティふらっと永福の取組） ゆう杉並の充実の取組
（地域子育てネットワーク事業※） 子ども・子育てプラザ（事務局機能）

※　各小学校区で、児童館及び子ども・子育てプラザを事務局として、地域との協働による地域交流の伝統行事の実施や、関係機関や地域団体等で構成する連絡会の開催など、子どもと子育てを応援する地域社会のつながりを強めるための取組

○　また、この間の様々な意見を踏まえ、「児童館再編の取組の進め方がどうであったのか」を検証項目としています。

②　児童館の機能・役割（活動内容）と検証の視点

○　杉並区の児童館は、18　歳未満のすべての子どもを対象に、地域における遊び及び生活の援助と子育て支援を行い、子どもの心身を育成し情操をゆたかにすることを目的とする児童福祉施設として、大きく分けて次の３つの機能・役割を果たしています。

- 子どもの居場所・成長支援
- 子育て支援
- 子ども・子育てを支えるネットワークづくり

○　これらの機能・役割については、「杉並区立児童館運営指針」（46 ページ参照）で「児童館運営の基本姿勢」に掲げ、これに沿って各児童館では活動を展開しています。

○　本検証では、これまでの児童館再編の取組に関して、検証の視点と活動内容等を次のとおり整理し、これまでの（現在の）児童館の役割・活動と、再編による居場所の役割・活動を対比しながら情報（アンケート結果等のデータ）の整理及び分析・評価を行いました。

【視点１】放課後等居場所事業（小学生の居場所）の活動内容はどうか

・　居心地の良い安全・安心な居場所の提供
・　子どもが主役の多様な遊びの援助

・　子ども同士の交流や仲間づくりの支援
・　スポーツ、文化・創作活動など様々な体験活動の提供
・　保護者や学校、関係機関との連携

【視点２】学童クラブ（小学生の居場所）の設置場所はどうか（※1）

・　設置場所の特性等

【視点３】子ども・子育てプラザ（乳幼児親子の居場所）の活動内容はどうか

・　くつろぎの居場所と遊び場の提供
・　子どもに関する身近な相談への対応
・　乳幼児親子の交流の場の提供
・　地域の子育て関連情報の提供
・　親子で楽しめるプログラムや子育てに関する講座等の実施
・　子育て自主グループの活動支援

【視点４】中・高校生の居場所の活動内容はどうか

・　中・高校生の新たな居場所づくりの取組（コミュニティふらっと永福の取組）
・　ゆう杉並の充実の取組

【視点５】地域子育てネットワーク事業（地域連携）の活動内容はどうか

・　子ども・子育てプラザにおける取組

【視点６】児童館再編に係る意見聴取などの進め方はどうか

※1　学童クラブの運営そのものは設置場所（児童館内、小学校内（近接地を含む））に関わらず、区立学童クラブとして統一的に展開しているため、設置場所の違いによる成果や課題について分析した。

ウ　情報の整理・分析

①　収集した情報（具体的な内容は資料編に掲載）

○　アンケート（施設再編前の施設の利用者対象）

・　児童館（ゆうキッズ）に関するアンケート
（児童館（５館）を利用する乳幼児の保護者対象）
期間：令和５年２月 28 日～３月７日
内容：児童館と子ども・子育てプラザを比較した満足度等
回答状況：157 人

・　児童館（小学生）の利用に関するアンケート
（児童館（５館）の対応小学校に在籍する児童及び保護者対象）
期間：令和５年２月 28 日～３月７日
内容：児童館の利用状況、放課後等居場所事業の移行への見解等
回答状況：839 人／2,784 人（回答率：30.1％）

○　アンケート（施設再編後の施設の利用者対象）

・　子ども・子育てプラザの利用に関するアンケート
（子ども・子育てプラザを利用する乳幼児保護者対象）

期間：令和５年２月 28 日～３月７日

内容：設置目的の達成状況、児童館と比較した満足度、児童館からの機能継承の評価等

回答状況：404 人

・ 放課後等居場所事業の利用に関するアンケート

（放課後等居場所事業実施小学校（14 校）に在籍する児童及び保護者対象）

期間：令和５年２月 28 日～３月７日

内容：事業の利用状況、児童館と比較した満足度、児童館からの機能継承の評価等

回答状況：1,980 人／7,896 人（回答率：25.1%）

・ 学童クラブの設置場所に関するアンケート

（令和 2 年度以降に児童館内から校内（隣接含む）に移設した学童クラブ（４所）に在籍する児童の保護者対象）

期間：令和５年２月 28 日～３月７日

内容：児童館内と小学校内の学童クラブの比較等

回答状況：147 人／505 人（回答率：29.1%）

・ 中・高校生世代の居場所に関するアンケート

（コミュニティふらっと永福を利用する中・高校生対象）

期間：令和５年３月３日～３月 15 日

内容：ティーンズタイムについて、児童館との比較等

回答状況：61 人

○ 意見交換会

・ 放課後等居場所事業に関する小学生との意見交換会（子ども会議）

対象：放課後等居場所事業実施校の小学生

時期：令和５年３月７日～３月 22 日（14 校で実施）

内容：放課後等居場所事業の満足度、児童館との比較等

・ 乳幼児親子の居場所に関する保護者等との意見交換会

対象：子ども・子育てプラザ（３所）の利用保護者、児童福祉関係者

時期：令和５年３月 24 日～３月 29 日（３所で実施）

内容：子ども・子育てプラザ、児童館の再編整備について等

・ 小学生の居場所に関する保護者等との意見交換会

対象：学童クラブ・放課後等居場所事業（各３所）利用児童保護者、児童福祉関係者

時期：令和５年３月 23 日～３月 29 日（３か所で実施）

内容：学童クラブ・放課後等居場所事業、児童館の再編整備について等

・ コミュニティふらっと永福を利用する中・高校生との意見交換会

対象：コミュニティふらっと永福のラウンジの一部や多目的室・楽器練習室を優先利用できるティーンズタイムを利用する中・高校生

時期：令和５年３月３日及び令和５年３月９日

内容：ティーンズタイムについて等

・　地域連携に関する意見交換会
　対象：杉並区母親クラブ
　時期：令和５年３月７日
　内容：児童館や子ども・子育てプラザの地域連携の役割等

○　現場職員ヒアリング

・　放課後等居場所事業の職員へのヒアリング
　対象：放課後等居場所事業実施対象校（14 校）の職員
　時期：令和５年４月 20 日
　内容：事業の取組状況、現場の実情等

・　学童クラブの職員へのヒアリング
　対象：学童クラブ（４クラブ）の職員
　時期：令和５年４月 20 日
　内容：校内学童のメリット・デメリット等

・　子ども・子育てプラザ職員等へのヒアリング
　対象：子ども・子育てプラザ（６所）及び下高井戸児童館職員
　時期：令和５年４月 18 日
　内容：区の取組、現場の実情等

・　児童館職員へのヒアリング
　対象：児童館（５館）の職員
　時期：令和５年４月 13 日～４月 27 日（５館で実施）
　内容：区の取組、現場の実情等

・　基礎情報
　各施設の利用状況等

②　情報の分析・評価

【視点１】放課後等居場所事業（小学生の居場所）の活動内容はどうか

主な情報　「居心地の良い安全・安心な居場所の提供」に関する部分
子どもの声から アンケート ○　「放課後等居場所事業は楽しいか」の問いに対し、「とても楽しい」「楽しい」と答えた子どもは合わせて 96.1%となっている。 ○　「放課後等居場所事業で遊んでいて、困ったことや嫌なことはあるか」の問いで、「おなかがすいて困る」「(人が多すぎて）うるさすぎる」と答えている子どもがいた。 ○　「放課後等居場所事業に参加しない理由はなにか」の問いで、理由の上位（1 位～3 位）は「塾や習い事があるから（44.3%)」、「早く家に帰りたいから（33.0%)」、「公園など別の遊び場所があるから（24.6%)」となっている。 ○　利用数の少ない高学年（4～6 年）についてのみ見ると、「塾や習い事があるから

（60.6%）」、「早く家に帰りたいから（44.4%）」、「公園など別の遊び場所があるから（33.4%）」となっている。また、下位（6位）の理由ではあるが、「年下の子が多いから（13.3%）」を挙げており、利用状況と連動している部分がある。

○　なお、児童館のアンケートにおいても同様の傾向（順位、割合）になっている。

子ども会議

○　「自転車で遊びにいきたい」「おやつを食べたい」という声があった。

保護者の声から

アンケート

○　「居心地の良い安全・安心な居場所の提供」に関する部分が継承されていると思うかの問いに対し、子どもが放課後等居場所事業に参加したことがある保護者の回答は、「継承されている」「どちらかといえば継承されている」は合わせて81.2%で、「どちらかといえば継承されていない」「継承されていない」は合わせて2.8%となっている。

○　なお、子どもが放課後等居場所事業に参加したことがない保護者の回答は、「継承されている」「どちらかといえば継承されている」は合わせて34.7%、「どちらかといえば継承されていない」「継承されていない」は合わせて3.0%、「どちらともいえない（わからない含む）」が62.4%となっている。

○　「放課後等居場所事業の内容に満足しているか」の問いに対し、「大変満足」「満足」は合わせて75.9%で、「不満」「大変不満」は合わせて3.6%となっている。

○　「放課後等居場所事業は児童館と比べて満足できるものだと思うか」の問いに対し、子どもが放課後等居場所事業に参加したことがある保護者の回答は「大変満足」「満足」が合わせて54.2%、「どちらともいえない」が37.4%、「不満」「大変不満」が合わせて8.4%だった。

○　なお、子どもが放課後等居場所事業に参加したことがない保護者の回答は、「大変満足」「満足」が合わせて9.0%、「どちらともいえない」が85.1%、「不満」「大変不満」が合わせて5.8%だった。

○　「お子さんが放課後等居場所事業に参加してよかったと思うこと」で「安全・安心に遊べる」が62.1%（1位）、「保護者不在時に留守番をさせなくてよい」が60.0%（2位）となっている。

○　児童館のアンケートの同質問「児童館を利用してよかったと思うこと」では、「安全・安心に遊べる」が55.5%（1位）、「保護者不在時に留守番をさせなくてよい」が46.5%（2位）となっている。

○　「放課後等居場所事業の内容についての意見」や、「児童館に替えて小学校施設を活用した放課後の居場所づくりを行うことについてどう思うか」の賛成の理由として、「学校外に出て移動することなく放課後に遊ばせることができて安全・安心である」とする意見が多数あった。また、事業の充実を求める意見として、学校休業日（平日）の利用時間を早めることや、居場所の利用有無をリアルタイムで保護者に通知することを求める声があった。

○　「放課後等居場所事業の内容についての意見」や、「児童館に替えて小学校施設を活用した放課後の居場所づくりを行うことについてどう思うか」の反対の理由と

して、「放課後等居場所事業は、児童館に比べて自由度が低くなった」とする意見があった。

○　その内容として、「おやつ・ゲームの持ち込みができない」「学童クラブの子と自由に遊べない」「一旦帰宅すると、自由な時間に出入りができない」「使用できる部屋（拠点となる部屋）が１つしかない」などが主に挙げられた理由となっている。

○　また、学校施設を活用した居場所であることから、「学校を居心地のいい場所だと思っていない子（学校になじめない子）にとっては居心地のよい居場所にはなりづらいのではないか」との意見があった。

○　ただし、一方で、「学校に行き渋りがある時も、放課後等居場所事業に行きたいから学校へ行くと子どもが言っている」という意見もあった。

意見交換会

○　放課後等居場所事業は学校から直接利用できて安全・安心である。

○　学校を窮屈に感じていたが、放課後等居場所事業を好きになって、学校に張り切っていくようになった。

○　学校内に居場所が移ると、気分転換にならないのではと心配していたが、放課後そのまま利用できてよい面があることが分かった。

○　低学年の親としては、学校から直接行ける放課後等居場所事業はありがたい。児童館では一旦帰宅してからの利用になるので不安がある。

○　何時間も学校にいるのは窮屈だと思う子もいる。

○　一旦帰宅したら、最終下校後まで放課後等居場所事業に遊びに行けないのは不便である。

○　人数に比べてかなり狭いように見える。空いている教室を使って、もっと広く遊べると、動きのある遊び、静かな遊びそれぞれできてよいのではないか。

○　高学年になると、おやつを食べたり、ゲーム、カード遊びをするようになり、児童館や放課後等居場所事業以外の場所で遊ぶようになった。

○　学校に頑張って通っている子ども、学校に居づらい子どもにとって、児童館は安全な場所だったことを考えると、色々な居場所の選択肢があるといい。

○　児童館を利用した際、遊戯室を半分に分け、一方では小学生がドッジボールを、もう一方では乳児がコンビカーで遊んでいて、安全面に不安を感じた。

運営状況から

基礎情報

○　利用者数（1所1日平均、令和4年度）　（単位：人）

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
放課後等居場所事業	10.3	7.8	6.1	4.4	2.3	1.5	32.4
児童館	4.3	4.1	4.6	3.7	3.7	2.1	22.6

○　放課後等居場所事業の利用者数は児童館に比して1.4倍となっている。

○　特に低学年になるほどその倍率が高い。

○　高学年（5・6年生）の利用者数は児童館の方が多くなっている。

現場職員ヒアリング

○　体育館の利用時間に、その日その場で「やりたいこと」を話し合って決めるなど、子どもの意見を聴いて運営に反映させる取組も行われている。

○　放課後等居場所事業も専門職が配置されており、子どもの様子をよくみて、必要な支援（困っている時に話を聞くなど）を行っている。

○　児童館は、おやつの持ち込み、ゲームの持ち込み（一部の児童館では不可）が可能となっており、また、自転車で遊びに行けるなど、子どもや保護者のニーズに応えることができている。

○　児童館の一般来館利用者数の減少は、学童クラブの需要増により、一般来館児童が利用できる諸室が年々減ってきていることが影響しているのではないか。

分析・評価

○　（保護者）「居心地の良い安全・安心な居場所の提供」に関する部分が継承されていると思うかの問いに、子どもが放課後等居場所事業に参加したことがある保護者の回答の「継承されている」「どちらかといえば継承されている」は合わせて81.2%となっており、「どちらかといえば継承されていない」「継承されていない」は合わせて2.8%となっている。

○　（保護者）「放課後等居場所事業の内容に満足しているか」の問いに対し、「大変満足」「満足」は合わせて75.9%となっている。

○　（子ども・運営状況）子ども自身が居心地の良さを感じているかどうかという点については、「放課後等居場所事業は楽しいか」の問いに対し、「とても楽しい」「楽しい」と答えた子どもが合わせて96.1%あり、この間の利用状況においても、児童館の利用に比して1.4倍の利用があることから、居心地の良い居場所として受け入れられていると評価できる。

○　（保護者）「お子さんが放課後等居場所事業に参加してよかったと思うこと」で「安全・安心に遊べる」が62.1%（1位）、「保護者不在時に留守番をさせなくてよい」が60.0%（2位）を占めていることや、「放課後等居場所事業の内容についての意見」で「学校外に出て移動することなく放課後に遊ばせることができて安全・安心である」といった意見があり、安全・安心な居場所として受け入れられていると評価できる。また、事業の充実を求める意見として、学校休業日（平日）の利用時間を早めることや、居場所の利用有無をリアルタイムで保護者に通知することを求める意見があった。

○　（運営状況）放課後等居場所事業においても、児童館と同じく専門職の職員が配置され、子どもの状況に応じた必要な支援や、日常の運営に子どもの意見を反映させる取組が行われている。

○　（運営状況）放課後等居場所事業の高学年の利用が少ないが、児童館でも同様の傾向があり、双方で有する課題と言える。

○　（保護者）「学校を居心地のいい場所だと思っていない子（学校になじめない子）にとっては居心地のよい居場所にはなりづらいのではないか」との意見がある一方、「学校に行き渋りがある時も、放課後等居場所事業に行きたいから学校へ行く

と子どもが言っている」という意見もある。

○　今回の検証にあたって収集した情報から判断すると、放課後等居場所事業の「居心地の良い安全・安心な居場所の提供」の活動について、一定の役割を果たしていると言える。

○　ただし、現在の活動において、以下の点を課題として指摘することができる。

・　学校の長期休業中の開所時間の前倒し（現在の 10 時から午前 8 時または午前 9 時からの開始）
・　放課後等居場所事業に参加していることをリアルタイムでお知らせする ICT システムの導入
・　学校になじめない子への対応
・　高学年児童の利用促進

○　また、「居心地の良い安全・安心な居場所の提供」の活動に関し、児童館が持つ特性について、以下のとおり指摘することができる。

放課後等居場所事業には見られない児童館の特性
□　常態として、子ども自身が自ら居心地の良いスペースを選んで、複数の部屋を利用することができる。 □　おやつなどの持ち込みができる。また、一部の児童館では自分の玩具（持ち込める玩具に制限あり）を持ち込んで遊ぶことができる。 □　ＳＳＷ（スクールソーシャルワーカー）等と連携して、不登校の子どもの活動場所として活用しやすい。

主な情報　「子どもが主役の多様な遊びの援助」に関する部分

子どもの声から

アンケート

○　「放課後等居場所事業は楽しいか」の問いに対し、「とても楽しい」「楽しい」と答えた子どもは合わせて 96.1%となっている。

○　「どんなことをして過ごしているか」の問いでは、上位 5 位の回答として「好きなおもちゃ（ボードゲームなどで遊ぶ）（69.9%）」「宿題や勉強をする（57.0%）」「友達とおしゃべりをする（51.1%）」「身体を動かして遊ぶ（48.9%）」「工作やお話の会などイベントに参加する（45.9%）となっており、子ども達が自ら選択して多様な遊び（宿題を含む）をして過ごしていると考えられる。

○　「放課後等居場所事業で遊んでいて、困ったことや嫌なことはあるか」の問いで、「好きなおもちゃがない」「好きなまんががない」「パソコンが使えない（宿題ができない、連絡帳が見れない）」（人が多すぎて）うるさすぎる」「勉強（宿題）をする場所がない」と答えている子どもがいた。

○　「放課後等居場所事業に参加しない理由は何か」の問いに対し、「やりたいと思うことができないから」が 15.6%（5 位）だった。

○　児童館のアンケートにおいても、「やりたいと思うことができないから（20.0%）」が 5 位に上げられている。

子ども会議

○　「その日の気分でやりたいことをする（放課後等居場所事業に参加する）」「イベントがある時に遊びにいく」など、子ども自身の意志で参加しているとの意見があった。

○　「宿題ができる（児童館の時はできなかった）」という声があった。

○　「アンケートボックスの返事がほしい」との意見があり、子どもから聴いた意見が運営に反映されるのか（取り入れられるのか）を知りたいと思う子どもに対応しきれていないと考えられる。

○　「児童館はいつでも工作ができた」「校庭や体育館で遊べる時間が短い」「おもちゃが少ない」という声があった。

保護者の声から

アンケート

○　「子どもが主役の多様な遊びの援助」に関する部分が継承されていると思うかの問いに対し、子どもが放課後等居場所事業に参加したことがある保護者の回答は、「継承されている」「どちらかといえば継承されている」は合わせて 70.1%で、「どちらかといえば継承されていない」「継承されていない」は合わせて 4.4%となっている。

○　なお、子どもが放課後等居場所事業に参加したことがない保護者の回答は、「継承されている」「どちらかといえば継承されている」は合わせて 24.4%、「どちらかといえば継承されていない」「継承されていない」は合わせて 1.8%、「どちらともいえない（わからない含む）」が 73.8%となっている。

○　「放課後等居場所事業の内容についての意見」では、「子どもがいつも楽しかったと話している」「あたたかく見守っていただきありがたい」「子どもが楽しめる工夫をたくさんしてくれている」「子どものサードプレイスとして親身に対応いただいている」という意見があった。

○　「放課後等居場所事業の内容についての意見」では、「校庭・体育館を利用できる時間に制約がある」「もっと身体を動かす遊びをさせてほしい」といった意見があった。

○　「放課後等居場所事業に不足している点は何か」の問いに対し、「外遊びなど身体を動かす活動」が 3 位（19.7%）に挙げられている。

○　「児童館に不足している点は何か」の問いに対し、「外遊びなど身体を動かす活動」が 1 位（34.9%）に挙げられており、外遊びなど身体を動かす活動に対する充足度については、放課後等居場所事業と児童館で結果に差異が見られた。

意見交換会

○　遊びをするだけはなく、ただお話をしたり、ゆっくりしたい子どももいる。

○　もう少し自由に遊べるようにしてほしい。
○　放課後等居場所事業の拠点の部屋が 2 つあれば、身体を動かす遊びと静かな活動が同時にできるのでありがたい。
○　決められた遊びより好きに遊びたい。特に高学年にはその傾向がある。
○　校庭が使えない、使う時間が短いのは残念である。

運営状況から

現場職員ヒアリング

○　「子ども会議」や「○○（放課後等居場所事業の愛称）ミーティング」など、子どもからやりたい遊びを聴く機会を設け、それをプログラムや運営に反映する取組を行っている。
○　専用の部屋がないこと（活動拠点の部屋が共用であること）がつらい。活動拠点の場所が狭い。

分析・評価

○　（保護者）「子どもが主役の多様な遊びの援助」に関する部分が継承されていると思うかの問いに、子どもが放課後等居場所事業に参加したことがある保護者の回答の「継承されている」「どちらかといえば継承されている」は合わせて 70.1%となっており、「どちらかといえば継承されていない」「継承されていない」は合わせて 4.4%となっている。
○　（子ども）多様な遊びができているかという点については、「放課後等居場所事業は楽しいか」の問いに対し、「とても楽しい」「楽しい」と答えた子どもが合わせて 96.1%となっていること、また、「放課後等居場所事業ではどんなことをして過ごしているか」の問いに対し「好きなおもちゃ（ボードゲームなどで遊ぶ）（69.9%）」「宿題や勉強をする（57.0%）」「友達とおしゃべりをする（51.1%）」「身体を動かして遊ぶ（48.9%）」「工作やお話の会などイベントに参加する（45.9%）」と答えていることから、子ども達が自ら選択して多様な遊び（宿題を含む）をして過ごしているがうかがえる。また、子ども会議では、「その日の気分でやりたいことをする（放課後等居場所事業に参加する）」「イベントがある時に遊びにいく」など、子ども自身の意志で放課後等居場所事業に参加していることがうかがえる。これらのことから、子ども達は自分たちのやりたい活動ができていると評価できる。
○　（子ども）一方で、「放課後等居場所事業に参加しない理由」として「やりたいことができないから」と答えた子が 15.6%となっていた。「児童館で遊ばない理由」として「やりたいことができないから」と答えた子は 20.0%となっている。放課後等居場所事業、児童館のいずれも「好きなおもちゃがない」「パソコンが使えない（宿題ができない）」「（人が多すぎて）うるさすぎる」「勉強（宿題）をする場所がない」といった意見があり、双方で有する課題と言える。
○　（子ども）子ども会議では「児童館ではいつでも工作ができた」という意見があった。放課後等居場所事業では、「工作タイム」などのプログラムを実施している

ほか、一部の放課後等居場所事業では、子ども達がいつでも自由工作ができるよう準備しているところもあるが、全体として、子どものニーズに対応した活動の展開が一層求められる。

○　（保護者）「放課後等居場所事業の内容についての意見」では「子どもが楽しんで利用している」「いつもあたたかく見守っていただきありがたい」などの意見がある。

○　（保護者・子ども）「校庭・体育館を利用できる時間に制約がある」「校庭や体育館で遊べる時間が短い」と言った意見があり、いつでも自由に身体を動かす遊びができる環境が望まれている。この点については、児童館では遊戯室があり、いつでも自由に身体を動かす遊びができる環境にあると言えるが、遊戯室の広さや同時に遊べる子どもの人数の関係などから、「1 年生タイム」「ドッヂボールタイム」「一輪車タイム」といった時間で区切る形で遊べる範囲を限定することがあり、誰でもが自由に利用できない場合がある。

○　また、「もっと身体を動かす遊びをさせてほしい」という意見がある。この点については、「放課後等居場所事業に不足している点は何か」の問いに対し、「外遊びなど身体を動かす活動」が 3 位（19.7%）に挙げられている。なお、児童館においても「不足している点」として「外遊びなど身体を動かす活動」が 1 位（34.9%）に挙げられているが、児童館は外遊びの環境が基本的に無いことが上位に挙げられた理由と考えられる。

○　（運営状況）児童館と同様に日常の遊びの中や「子ども会議」等の実施を通じて子どもの意見を聴き、それを運営に反映させる取組を行っている。

○　<u>今回の検証にあたって収集した情報から判断すると、放課後等居場所事業の「子どもが主役の多様な遊びの援助」の活動について、一定の役割を果たしていると言える。</u>

○　ただし、現在の活動において、以下の点を課題として指摘することができる。

- 「静かな遊び（宿題を含む）」をする場所、「身体を動かす遊び」をする場所、など、利用人数に応じた遊び場所の更なる確保
- 子どもの成長に応じたおもちゃや本の充実
- 更に子どもの意見を運営に取り入れるための仕組みづくり・運営の工夫
- 外遊びなど身体を動かす活動の充実

○　また、「子どもが主役の多様な遊びの援助」の活動に関し、児童館が持つ特性について、以下のとおり指摘することができる。

放課後等居場所事業には見られない児童館の特性
□　複数の部屋（図書室、音楽室、遊戯室など）を同時に活用できる。

主な情報　「子ども同士の交流や仲間づくりの支援」に関する部分
子どもの声から アンケート ○　「どんなことをして過ごしているか」の問いでは、「好きなおもちゃ（ボードゲームなどで遊ぶ）（69.9%）」「友達とおしゃべりをする（51.1%）」「身体を動かして遊ぶ（48.9%）」「工作やお話の会などイベントに参加する（45.9%）」など、友達と一緒に遊んでいる（過ごしている）ことがわかる。 ○　「放課後等居場所事業で遊んでいて、困ったことや嫌なことはあるか」の問いで、「同い年の子がいない」「友達が遊んでいない」「他の学年の子とトラブルになる」「学童の子と遊べないからいやだ」などの意見があった。 ○　「放課後等居場所事業でやってみたい、やってほしいことはあるか」の問いでは、「赤ちゃんや小さい子のお世話」（23.5%）「中学生・高校生と一緒に遊んだりおしゃべりすること」（16.3%）を挙げている。 ○　児童館のアンケートでは、「赤ちゃんや小さい子のお世話」（22.2%）「中学生・高校生と一緒に遊んだりおしゃべりすること」（12.2%）と回答しており、多世代間の交流についてのニーズは、ほぼ同様の傾向であった。 ○　「放課後等居場所事業に参加しない理由は何か」の問いに対し、「友達が遊んでいないから（参加していないから）」が 22.5%だった。 子ども会議 ○　「違う学年の子と遊ぶようになった」「（参加した時に遊んでいる）知らない子と遊ぶ」「（赤ちゃんと一緒に遊んだりしたい？という問いに対し）自分たちだけで遊びたい（小さい子がいると危ないので思い切り遊べない）」という声があった。 ○　「友達に誘われたときに遊んでいる」「初めて会う子とも遊んでいる」という声があった。 ○　「児童館には赤ちゃんの部屋があり、一緒に遊んだりできるのがいい」「中・高校生がいてもいい」といった小学生以外との交流があるのもよいとする意見があった。 保護者の声から アンケート ○　「子ども同士の交流や仲間づくりの支援」に関する部分が継承されていると思うかの問いに対し、子どもが放課後等居場所事業に参加したことがある保護者の回答は、「継承されている」「どちらかといえば継承されている」は合わせて 65.7%で、「どちらかといえば継承されていない」「継承されていない」は合わせて 5.7%となっている。 ○　なお、子どもが放課後等居場所事業に参加したことがない保護者の回答は、「継承されている」「どちらかといえば継承されている」は合わせて 29.5%、「どちらかといえば継承されていない」「継承されていない」は合わせて 2.9%、「どちらともいえない（わからない含む）」が 67.5%となっている。 ○　「お子さんが放課後等居場所事業に参加してよかったと思うこと」では、「他のク

ラスや別の学年の友達と遊ぶことが増えた」28.0%（4位）、「友達が増えた」18.0%（5位）となっている。

○　「放課後等居場所事業の内容についての意見」では、児童館のように、「他校の友達と遊ぶことができなくなった」「国立・私立に通う子など、当該校以外の子が利用しづらい」「学童クラブに在籍している友達と遊べなくなった」「児童館ではできていた乳幼児や中・高校生との交流ができなくなった」という意見があった。

意見交換会

○　放課後等居場所事業を利用して、他のクラスや学年にも友達ができるのがよい。

○　学童クラブと放課後等居場所事業の子どもが交流して、一緒に遊べる機会が日常的になるといい。

○　児童館は多世代で使えた。

○　児童館では、小学生と乳幼児が違う部屋で遊んでいて、廊下などで緩やかに交流できる環境はよかった。

○　他の小学校のエリアに住んでいる子はなかなか行きづらい。

○　制約が多い学校内ではなく、もっと多世代交流ができるような工夫をしてほしい。

運営状況から

基礎情報

○　実施校以外の他校に在籍する小学生の利用状況（1校1月平均、令和4年度）
他校登録数：9.2名（全登録数：356.9名）
他校利用数：3.9名（全利用数：782.4名）

現場職員ヒアリング

○　放課後等居場所事業と学童クラブの子ども同士の交流を促進するため、学童クラブの在籍児童も定期的に参加できるイベントを企画している。

○　ただし、学童クラブは学童クラブとしての集団形成が必要であり、常に放課後等居場所事業の子どもと行動を共にすることはできない。

○　「1年生グループ」「卓球グループ」「みんなであそぼう」等、仲間づくりを支援する活動が実施されている。

○　1・2年生が多く、高学年が部屋の様子を見て帰ってしまうこともある。

○　高学年のニーズとして、「学童クラブの子と一緒にいたくない」「スペースや時間を分けてほしい」という声がある。

○　児童館では、ノーマライゼーション事業（障害のある子どももない子どもも一緒に楽しめるプログラムや障害を理解するためのプログラム）を実施していたが、放課後等居場所事業ではこうしたプログラムは行われていない。

分析・評価

○　（保護者）「子ども同士の交流や仲間づくりの支援」に関する部分が継承されていると思うかの問いに、子どもが放課後等居場所事業に参加したことがある保護者の回答の「継承されている」「どちらかといえば継承されている」は合わせて

65.7%となっており、「どちらかといえば継承されていない」「継承されていない」は合わせて5.7%となっている。

○　（保護者・子ども）「お子さんが放課後等居場所事業に参加してよかったと思うこと」で「他のクラスや別の学年の友達と遊ぶことが増えた」が28.0%（4位）、「友達が増えた」が18.0%（5位）となっており、子どもの声からも初めて会う子や違う学年の子とも遊んでいる様子がうかがえる。児童館でも同様の傾向があり、双方の居場所において、子ども同士の交流や仲間づくりの支援が行われていると評価することができる。

○　（保護者・子ども）一方、保護者からは、放課後等居場所事業の内容についての意見で「学童クラブの子と遊べなくなった」との意見が、子どもからは「放課後等居場所事業で遊んでいて、困ったことや嫌なことはあるか」の問いで「学童クラブの友達と遊べないのがいやだ」という意見がある。児童館内学童クラブに比べて学童クラブ在籍児童との交流が限られる点は運営上の課題と言えるため、今後に向けては、この点についても留意する必要がある。

○　（保護者・運営状況）放課後等居場所事業の内容についての意見で「国立・私立に通う子などが利用しづらいのではないか」という意見があるが、放課後等居場所事業には、国立・私立に通う子どもを含む他校の子どもは実際に登録し利用している状況があることから、このことをもって役割が継承できていないとは言えないが、他校の子どもがより利用しやすい環境づくりが望まれる。

○　（保護者・子ども）「児童館ではできていた乳幼児や中・高校生との交流ができなくなった」という保護者の意見や「赤ちゃんや小さい子のお世話」や「中学生・高校生と一緒に遊んだりおしゃべりしたい」との意見があるが、小学生対象の事業であるという性格から、世代間交流の促進には課題があると考えられる。ただ、卓球タイムやダンスタイムに中学生がジュニアリーダー（ボランティア）として参画している放課後等居場所事業もある。また、子ども会議での意見の中には「自分たちだけで遊びたい」という声もある。

○　（子ども・運営状況）子ども自身が子ども同士の交流や仲間づくりを求めているかという点については、友達に誘われて遊びにくる子、グループ活動に参加する子、一人で遊びに来て他の子と一緒に遊ぶ子など、子どもの意志で参加し、一緒に遊んだり交流したりしている。

○　（運営状況）放課後等居場所事業、児童館のいずれも「1年生グループ」「卓球グループ」「みんなで遊ぼう」などのグループ活動を実施し、子ども同士の交流や仲間づくりを支援する取組が行われている。また、放課後等居場所事業では、「学童クラブと交流しよう」といった交流イベントや、学童クラブ在籍児童も参加できる放課後等居場所事業のイベントも実施している。

○　<u>今回の検証にあたって収集した情報から判断すると、放課後等居場所事業の「子ども同士の交流や仲間づくりの支援」の活動について、一定の役割を果たしていると言える。</u>

○　ただし、現在の活動において、以下の点を課題として指摘することができる。

・ 学童クラブ在籍児童との更なる交流機会
・ 乳幼児や中・高校生との世代間交流
・ 障害がある子どもが利用しやすい環境づくり

○ また、「子ども同士の交流や仲間づくりの支援」の活動に関し、児童館が持つ特性について、以下のとおり指摘することができる。

放課後等居場所事業には見られない児童館の特性
□ 同年代（小学生同士など）だけではなく、日常的に年代の違う子ども（乳幼児や中・高校生など）と出会うことができる。 □ 館内学童クラブがある児童館においては、常態として学童クラブ在籍児童と一般来館児童が一緒に過ごすことができる。

主な情報 「スポーツ、文化・創作活動など様々な体験活動の提供」に関する部分

子どもの声から

アンケート

○ 「放課後等居場所事業は楽しいか」の問いに対し、「とても楽しい」「楽しい」と答えた子どもは合わせて 96.1%となっている。

○ 「どんなことをして過ごしているか」の問いに、「工作やお話の会などのイベントに参加する」（45.9%）（5 位）を挙げている。

○ 児童館のアンケートでは、同じく 5 位に挙げられているが、割合は 36.6%となっている。

○ 「遠足に行ってみたい」「お泊まりがしたい」「児童館でやっていた料理や実験が楽しかった」といった、児童館の頃にはできていたことをやってみたいという意見があった。

子ども会議

○ 「工作やダンスが楽しい」といった意見があった。

保護者の声から

アンケート

○ 「スポーツ、文化・創作活動など様々な体験活動の提供」に関する部分が継承されていると思うかの問いに対し、子どもが放課後等居場所事業に参加したことがある保護者の回答は、「継承されている」「どちらかといえば継承されている」は合わせて 58.9%で、「どちらかといえば継承されていない」「継承されていない」は合わせて 6.8%となっている。

○ なお、子どもが放課後等居場所事業に参加したことがない保護者の回答は、「継承されている」「どちらかといえば継承されている」は合わせて 23.3%、「どちらかといえば継承されていない」「継承されていない」は合わせて 3.7%、「どちらともいえない（わからない含む）」が 73.1%となっている。

○　「お子さんが放課後等居場所事業に参加してよかったと思うこと」では、「家ではできない遊びができる」41.6%（3位）となっている。
○　「放課後等居場所事業の内容についての意見」では、「工作が楽しかったと言って子どもが喜んでいる」「卓球タイムをとても楽しみにしている」という意見があった。
○　「放課後等居場所事業の内容についての意見」では、「クッキング」「自然の体験イベント」「おまつり」「工作」などを（もっと）やってほしいという意見があった。

意見交換会
○　中学生との交流の場として、部活体験ができている。
○　小学生の居場所には、安心と冒険がセットで必要である。

運営状況から
現場職員ヒアリング
○　母親クラブ、PTA、学校支援本部、保護者に協力を依頼し読み聞かせや工作などのプログラムを実施したり、学校支援本部が実施する放課後子ども教室と協働でプログラムを実施している放課後等居場所事業もある。
○　高学年に向けたイベントは、高学年のニーズ把握が難しく、また塾や習い事などで忙しくなるため、スケジュール調整も難しい状況がある。

分析・評価

○　（保護者）「スポーツ、文化・創作活動など様々な体験活動の提供」に関する部分が継承されていると思うかの問いに、子どもが放課後等居場所事業に参加したことがある保護者の回答の「継承されている」「どちらかといえば継承されている」は合わせて 58.9%となっており、どちらかといえば継承されていない」「継承されていない」は合わせて6.8%となっている。
○　（子ども）スポーツ、文化・創作活動など様々な体験活動ができていると感じているかどうかという点については、「どんなことをして過ごしているか」の問いに対し、「工作やお話の会などのイベントに参加する」（45.9%）となっていることや、「工作やダンスが楽しい」といった意見からも、スポーツ、文化・創作活動ができていると評価できる。一方で、子ども会議で、クッキングや遠足など、児童館で行っていた体験活動をやりたいという意見がある。
○　（保護者）「放課後等居場所事業の内容についての意見」では、「工作が楽しかったと言って子どもが喜んでいる」「卓球タイムをとても楽しみにしている」といった声や、「お子さんが放課後等居場所事業に参加してよかったと思うこと」という問いに対し、「家ではできない遊びができる」が41.6%（3位）となっていることから、様々な体験活動の提供は行えていると評価できる。
○　（運営状況）地域団体、学校関係者の協力を得てプログラムを実施している。

○　今回の検証にあたって収集した情報から判断すると、放課後等居場所事業の「スポーツ、文化・創作活動など様々な体験活動の提供」の活動について、一定の役割を果たしていると言える。

○　ただし、現在の活動において、以下の点を課題として指摘することができる。

・　体験活動（イベント、プログラム）の充実

○　また、「スポーツ、文化・創作活動など様々な体験活動の提供」の活動に関し、児童館が持つ特性について、以下のとおり指摘することができる。

放課後等居場所事業には見られない児童館の特性
□　夜間の行事や施設に宿泊する行事が実施できる。

主な情報　「保護者や学校、関係機関との連携」に関する部分

保護者の声から

アンケート

○　「放課後等居場所事業の内容についての意見」では、「お迎えの時など、子どもの様子などを伝えてくれてありがたい」「なにかあれば電話で連絡をもらい、安心」「いつも丁寧に子どもと接している様子を子どもの顔から感じる」「ひとりひとりをよく見ており、安心」「子どもが困っている時などきちんと対応してくれた」との意見があった。

○　児童館のアンケートの「児童館の内容についての意見」でも、「小さな喜びでも一緒に共有し、ちょっとした不安にも優しく寄り添ってもらいありがたい」「子どものよいところを伝えてくれた。自分では気づけなかったのでありがたかった」との意見があった。

○　「放課後等居場所事業の内容について意見」では、「顔が見えづらい」「どんなスタッフがいるかわからない」「多様」「子育ての先輩と言えるような（専門性のある）スタッフを望む」との意見がある。

意見交換会

○　放課後等居場所事業の職員は若い印象だが、児童館の職員は経験豊富で、子育ての悩みごとを相談したときに、寄り添って聞いてくれた。

運営状況から

基礎情報、現場職員ヒアリング

○　保護者と接する機会が少ないながら、お迎え時などの職員との会話で放課後等居場所事業での子どもの様子を伝えることや相談にのることで、保護者からも喜ばれている。

○　怪我をした時の対応や他児とのトラブル対応などにおいて、早めに保護者に連絡する等適切にアプローチしている。

○　子どもの様子がいつもと違う時など、必要に応じてその様子を学校や所属館に共有し、関係機関につないでいる。
○　一部の放課後居場所では保護者が気軽に参加できる取り組みとして、土曜日に親子プログラムを実施しており、広がりを見せている。
○　コロナ禍にあり大型プログラムや料理プログラムが行えない中、小学生の保護者同士の出会いと交流を進めるような取組は実施しづらい状況にあった。

分析・評価

○　（保護者）「放課後等居場所事業の内容についての意見」では、「お迎えの時など、子どもの様子などを伝えてくれてありがたい」「なにかあれば電話で連絡をもらい、安心」「いつも丁寧に子どもと接している様子を子どもの顔から感じる」「ひとりひとりをよく見ており、安心」「子どもが困っている時などきちんと対応してくれた」との意見があり、児童館の一般来館児の保護者への対応と同様、丁寧な対応を行っていることがうかがえる。
○　（運営状況）保護者のお迎え時やケガ・トラブルの連絡時など、機会を捉えて保護者にアプローチし、コミュニケーションをとっていることがうかがえる。
○　（運営状況）子どもの様子がいつもと違う時など、子どもが友達関係や養育上の課題を抱えていることが懸念される場合は、学校と連携し、関係機関につなぐなどの対応を行っている。

○　<u>今回の検証にあたって収集した情報から判断すると、放課後等居場所事業の「保護者や学校、関係機関の連携」の活動について、一定の役割を果たしていると言える。</u>
○　ただし、現在の活動において、以下の点を課題として指摘することができる。
　・　親子プログラムの実施など、保護者同士の交流、職員と保護者の信頼関係構築につながる取組の全区的な実施

○　また、「保護者や学校、関係機関の連携」の活動に関し、児童館が持つ特性について、以下のとおり指摘することができる。

放課後等居場所事業には見られない児童館の特性
□　子どもや保護者と職員との関係作りにおいて、乳幼児期の利用からの継続的なつながりがある。

【視点２】学童クラブ（小学生の居場所）の設置場所はどうか

主な情報

保護者の声から

アンケート

通所の安全・安心について

○　「小学校内(学校隣地)がよい」、「どちらかと言えば小学校内(学校隣地)がよい」が計 91.8%で、「小学校内(学校隣地)がよくない」、「どちらかと言えば小学校内(学校隣地)がよくない」の計 4.1%を大きく上回っている。

（よいと思う理由）

○　交通事故や不審者などのリスクがなく安心、1 人でも安心して通える。

○　１年生から通う場所としては校内の方が安全に行けると思う。

（よくないと思う理由）

○　（地域に）開かれた場としては小学校内ではない方が関われる人は沢山いると思う。

○　「いじめ」や「不登校」で、学校がマイナスの場になった時、子どもは通えなくなってしまうのではないか。

身体を動かして遊ぶ機会について

○　「小学校内(学校隣地)がよい」、「どちらかと言えば小学校内(学校隣地)がよい」が計 83.8%、「小学校内(学校隣地)がよくない」、「どちらかと言えば小学校内(学校隣地)がよくない」の計 5.4%を大きく上回っている。

（よいと思う理由）

○　広い校庭、体育館が使える、学校は小学生にあった遊具がある。

○　使い勝手がわかっている（使い慣れた）場所なので事故につながりにくいように思う。

（よくないと思う理由）

○　運動部の活動と重なってしまうなど、体育館や校庭が使える時間、日にちに限りがある。

○　児童館内ならば、常に遊戯室が使える。

学童クラブに在籍しない友達と遊ぶ機会について

○　「小学校内(学校隣地)がよい」、「どちらかと言えば小学校内(学校隣地)がよい」が計 65.5%で、「小学校内(学校隣地)がよくない」、「どちらかと言えば小学校内(学校隣地)がよくない」の計 6.1%を大きく上回っている。

（よいと思う理由）

○　クラブに在籍しない子も学校なら遊びに来やすいと思う。

○　すれ違いなどを防ぐことができるし、事故の面からも安心。

（よくないと思う理由）

○　違う小学校の友達や兄弟関係のかかわりを考えると、小学校内では一緒に遊べない。

○　学童と放課後は別の場所で運営されているため、一緒に遊ぶことができない。

育成室などの活動スペースについて

○　「小学校内(学校隣地)がよい」、「どちらかと言えば小学校内(学校隣地)がよい」が計 68.0%で、「小学校内(学校隣地)がよくない」、「どちらかと言えば小学校内(学校隣地)がよくない」の計 6.6%を大きく上回っている。

（よいと思う理由）

○　知っている場所（学校）で安心感があると思う。
○　別の建物だと敷地面積が限られるイメージがある。
（よくないと思う理由）
○　学校とは切り離した場所の方が精神的に安定すると思う。
○　放課後なのに、学校内にあると静かにしないといけない(他の学年の授業などで)。
学童クラブを児童館内から小学校内（学校隣地含む）へ移設する取組について
○　「賛成である」、「どちらかといえば賛成である」が計 75.1%で、「どちらかといえば反対である」、「反対である」の計 9.4%を大きく上回っている。
（賛成の理由）
○　事故や事件の心配がなく安心だから。また、小学校との連携もより強くなると思う。
○　未就学児も就学後の児童もそれぞれ安全にのびやかに過ごせるよう、場所を棲み分けるのは、双方にとって良いと思う。
○　学校が、勉強だけでなく、子どもの交流の場であってほしい。
○　小学校内になったことで、より多くの学童を必要とする家庭が入ることができたのではないかと思う。
○　児童館内にあるより、学校内にある方が子どもも安心すると思う。
（反対の理由）
○　校庭が使える頻度が少ない。
○　学校の一部を使うため、時間や遊び方に子も親も制約が多くなり、自由に遊べなくなったと感じる。
○　一日学校にいるので気分を変えてリラックスするために、場所を移動するのは悪いことではない。
○　外部と切り離され、乳幼児親子や中学生は、勿論、クラブでない同級生とすら関わる機会が断たれ、学童クラブ卒会後のロールモデルを見ることができず、卒会後の人間関係や、お友達と約束をして遊ぶという社会性を身につけられないまま卒会する。
○　学童を学校内に移すのはいいが、児童館をなくすのには反対です。

運営状況から
現場職員ヒアリング
○　校内にあることで安全性は保たれている。校内にあることの安心感は大きい。
○　通所支援が必要な子どもも、担任の先生の協力やクラブからのお迎えなど、通所しやすい。
○　学童までの移動時間がないので利便性が高い。
○　高学年になったときの放課後の過ごし方を保護者と共有し、居場所への移行準備として放課後居場所体験を取り入れている。
○　育成室が狭い。学校行事等で校庭や体育館が使えないと辛いことがある。
○　校庭や体育室で居場所利用の児童と一緒に遊ぶことが出来ることが良い。
○　学校との連携（育成に当たっての情報交換や活動スペースの調整など）がとても

大切だと思っている。

○　居場所と活動を共にしている。今後も継続していきたい。

分析・評価

○　学童クラブの設置場所に関する何れの視点においても、多くの保護者が校内（隣接地）設置を望ましいと考えていることがうかがえる。

○　一方で、次のような課題を指摘できる。

・　広い校庭や体育館を使用できるという大きなメリットがある反面、学校行事等で使用できない場合に活動場所が育成室に限定される状況にある。

・　学童クラブに在籍しない子どもとの交流に関し、校庭や体育館で放課後等居場所事業に参加する子どもと一緒に遊ぶ機会を設けているが、基本の活動場所が異なるため、決まった時間以外は遊ぶ機会が限られている。

○　また、学童クラブの運営に関し、児童館（児童館内学童クラブ）が持つ特性について、以下のとおり指摘することができる。

校内学童クラブには見られない児童館（児童館内学童クラブ）の特性
□　常態として学童クラブ在籍児童と一般来館児童が一緒に過ごすことができる。 □　また、小学生同士だけではなく、日常的に年代の違う子ども（乳幼児や中・高校生）と出会うことができる。 □　育成室以外に、複数の部屋（児童館諸室）を日常的に利用することができる。

【視点３】子ども・子育てプラザ（乳幼児親子の居場所）の活動内容はどうか

主な情報　「くつろぎの居場所と遊び場の提供」に関する部分

利用者の声から

アンケート

○　「くつろぎの居場所と遊び場の提供」に関する部分が継承されていると思うかの問いに対し、「継承されている」「どちらかといえば継承されている」は合わせて96.5%で、「どちらかといえば継承されていない」「継承されていない」は合わせて1.5%となっている。

○　「子ども・子育てプラザを利用する目的は何か」の問いに対し、「子どもの遊びの場」が93.1%（1位）、「自身のくつろぎの場」が14.1%（6位）となっている。

○　「子ども・子育てプラザのよいと思われるところ」の問いに対し、「気軽に利用できる」が76.1%（1位）、「安心して利用できる」が51.5%（2位）、「年齢や発達に応じたおもちゃが配置されている」が29.1%（4位）、「土曜日・日曜日も開所している」が22.4%（5位）となっている。

○　「子ども・子育てプラザへの満足度」の問いに対して「大変満足」は55.4%、「満

足」は 42.4%で、合わせて 97.8%である。

○　「子ども・子育てプラザへの満足度」の問いに対して「年齢ごとのおもちゃがあって安心」「乳児向けのスペースがあって良い」「調乳器があることが助かる」「親子で自宅のようにくつろいでいる」「午後も気軽に利用できる」「日曜日にあいている」「床暖房や木のぬくもりなどきれい」という意見があった。

○　子ども・子育てプラザと児童館全体に対するご意見の中には「ほぼ毎日使っています」「朝 9 時からがうれしい」「子どもも自身もリラックスして過ごすことができる」「周りに大きな子がいないから一日中安心して遊ばせることができる」と意見が挙げられている。

○　「子ども・子育てプラザのよくないと思われるところ」の問いに対し、「特になし」が 46.3%（1 位）、「利用の都度、利用票を記入することが煩わしい」が 33.8%（2 位）、「自宅からの距離が遠い」が 25.3%（3 位）、「年齢が高い幼児向けの遊具や本が少ない」が 13.3%（5 位）となっている。

○　「児童館のよくないと思われるところ」の問いに対し、「特になし」が 56.7%（1 位）、「利用の都度、利用票を記入することが煩わしい」が 21.3%（2 位）、「幼児にはスペースが狭くて利用しづらい」「施設内が過密だ」が 12.0%（同率 4 位）、「自宅からの距離が遠い」が 10.0%（5 位）、「年齢が高い幼児向けの遊具や本が少ない」が 8.0%（7 位）となっている。

○　「子ども・子育てプラザへの満足度」の問いに対して「（児童館は）アットホームで親も子もお友達や先生と親しくなれる」「（プラザは）距離が遠く利用しづらい」「児童館のように各地区に複数個所ないと難しい」「近隣にない」「利用票は一度登録したら免除してほしい」との意見があった。

○　子ども・子育てプラザと児童館全体に対するご意見の中には「（児童館は）気軽に利用できる」「（児童館は）身近にあってありがたい」「（児童館は）施設が古いがアットホーム」「プラザは 0～2 歳向けの施設のイメージで幼児期には（遊具等が）物足りない」「（プラザは）土日混んでいる」「（プラザは）混んでいて、小さい子に怪我をさせないか心配」「自転車に乗せられるようになる前の時期は、児童館のように歩いて行ける距離にあってほしい」との意見が挙げられている。

利用者や地域の方の声から

意見交換会

○　午後も遠慮することなく広いスペースで遊べる。

○　日曜日に利用できるのが良い（職員がいるかどうか）。

○　家から距離があっても行く。

○　（児童館は）大きな子どもがいる中に乳幼児を連れていくことに不安があった。

○　（児童館は様々な年齢層が混在して遊んでいたが）みんなで注意しながら遊んでいたことが魅力。

○　徒歩で行ける範囲にないと利用しづらい。

○　幼稚園後にプラザまでは遊びに行きづらい。

運営状況から

基礎情報

○　利用人数：乳幼児数（令和４年度）

プラザ一日平均：58.8 人（児童館比 5.4 倍）

児童館一日平均：10.9 人

アンケート

○　プラザ利用者の居住距離

0.5 km以内：28.7%

0.5～１km以内：41.3%

1 km以上：30.0%

○　児童館（ゆうキッズ）利用者の居住距離

0.5 km以内：54.0%

0.5～１km以内：35.3%

1 km以上：10.6%

分析・評価

○　（保護者）「くつろぎの居場所と遊び場の提供」に関する部分が継承されていると思うかの問いに、「継承されている」「どちらかといえば継承されている」は合わせて 96.5%となっており、「どちらかといえば継承されていない」「継承されていない」は合わせて 1.5%となっている。

○　（保護者・運営状況）「子ども・子育てプラザに満足しているか」の問いに対し、「大変満足」「満足」は合わせて 97.8%となっており、「不満」「大変不満」合わせて 1.3%を大きく上回っている。また、利用状況からも乳幼児の利用者数は 5.4 倍となっている。

○　（保護者）「子ども・子育てプラザを利用する目的は何か」の問いに対し、「子どもの遊びの場」が 93.1%、「自身のくつろぎの場」が 14.1%となっている。「児童館を利用する目的は何か」の問いに対しては「子どもの遊びの場」が 83.4%、「自身のくつろぎの場」が 14.6%となっており、同様の傾向がみられる。

○　（保護者）「子ども・子育てプラザのよいと思われるところ」の問いに対し、「気軽に利用できる」が 76.1%、「安心して利用できる」が 51.5%、「年齢や発達に応じたおもちゃが配置されている」が 29.1%、「土曜日・日曜日も開所している」が 22.4%となっている。「児童館のよいと思われるところ」の問いに対し、「気軽に利用できる」が 80.3%、「安心して利用できる」が 41.4%、「年齢や発達に応じたおもちゃが配置されている」が 13.4%、「土曜日・日曜日も開所している」が 6.4%となっており、概ね同様の傾向がみられ、前述の満足度や利用状況から、くつろぎの居場所と遊び場として受け入れられていると評価できる。

○　「子ども・子育てプラザは児童館に比べて満足できるものか」の問いの理由や「子ども・子育てプラザや児童館（ゆうキッズ）についての意見」に「日曜も開所しているのがありがたい」「朝 9 時から開所しているのがよい」「調乳器があることが助かる」といった意見があり、開所日、運営時間、設備面においては、その機

能・役割が充実されたと言える。

○　（保護者・運営状況）一方、「子ども・子育てプラザのよくないと思われるところ」の問いに対し、「自宅からの距離が遠い」が 25.3%となっているが、プラザ利用者の居住距離では 1km 以上離れていても利用している方が 30.0%であることから、広域からも多く利用いただいている状況が見てとれる。

○　（保護者）「プラザになり、周りに大きな子（小学生）がいないから一日中安心して乳幼児を遊ばせることができる」といった意見がある一方、「子ども・子育てプラザのよくないと思われるところ」の問いに対し、「小学生以上の子どもとの交流が少ない（6.1%）」が挙げられている。「児童館のよくないと思われるところ」の問いに対し、「小学生以上の子どもとの交流が少ない」が 4.5%となっており、同様の傾向がみられる。

○　また、放課後等居場所事業でのアンケートにおいても、「小学生と乳幼児や中・高校生との交流」を求める声があったことから、乳幼児親子の居場所においても小学生の放課後の居場所においても、双方で課題と言える。この点については、令和 5 年 6 月から子ども・子育てプラザの小学生の利用拡大の取組を行い、令和 5 年 6 月から全プラザで本格実施を開始しており、この取組の中で小学生以上との交流は行えるものと考える。また、プラザは日常の中でも小学生が居場所の補完として利用していることから、交流が行えていないとは言えないが、運営上の課題であると考える。

○　<u>今回の検証にあたって収集した情報から判断すると、子ども・子育てプラザの「くつろぎの居場所と遊び場の提供」の活動について、役割を果たしていると言える。</u>

○　ただし、現在の活動において、以下の点を課題として指摘することができる。

・　世代間交流の方法

主な情報　「子どもに関する身近な相談への対応」に関する部分
利用者の声から アンケート ○　「子どもに関する身近な相談への対応」に関する部分が継承されていると思うかの問いに対し、「継承されている」「どちらかといえば継承されている」は合わせて 83.9%で、「どちらかといえば継承されていない」「継承されていない」は 0%となっている。 ○　「子ども・子育てプラザを利用する目的は何か」の問いに対し、「子育てに係る身近な相談」は 8.7%（8 位）となっている。 ○　「子ども・子育てプラザのよいと思われるところ」の問いに対し、「子育ての悩みや不安を職員に相談できる」は 4.5%（10 位）、「職員が気軽に声をかけてくれる」が 18.9%（6 位）となっている。 ○　「子ども・子育てプラザへの満足度」の問いに対して「大変満足」は 55.4%、「満足」は 42.4%で合わせて 97.8%である。

○　「子ども・子育てプラザへの満足度」の問いに対して「ちょっとした愚痴や悩みをこぼせる」「初めての子育てで不安な中、職員や同世代ママがありがたい存在」「いつでもウェルカムで受け入れてくれる」「話ができて精神的な負担軽減になっている」という意見があった。

○　子ども・子育てプラザと児童館全体に対するご意見の中には「保育園に行き始めたので、夕方や土日利用できるのがありがたい」「職員が手厚く対応してくれる」と意見が挙げられている。

利用者や地域の方の声から

意見交換会

○　悩んだ時に相談できる、ガス抜きになる。

○　同じ境遇の保護者がいて悩み事をはなしやすい。

○　疲弊している中では乳幼児専用で安心して利用できることが重要。

○　日曜日に利用できるのが良い。職員がいるかどうかもとても大きい。

○　（もっと）育児や発達についての学びの場になるとよい。

○　人間関係のトラブルももう少し幅広くとらえてほしい。

運営状況から

基礎情報

○　利用人数：乳幼児数（令和４年度）
　　プラザ一日平均：58.8 人（児童館比 5.4 倍）
　　児童館一日平均：10.9 人

分析・評価

○　（保護者）「子どもに関する身近な相談への対応」に関する部分が継承されていると思うかの問いに「継承されている」「どちらかといえば継承されている」は合わせて 83.9%となっており、「どちらかといえば継承されていない」「継承されていない」との回答はなかった。（0%）

○　（保護者）「子ども・子育てプラザを利用する目的は何か」の問いに対し、「子育てに係る身近な相談」が 8.7%となっている。「児童館を利用する目的は何か」の問いに対し、「子育てに係る身近な相談」は 7.6%となっている。「子ども・子育てプラザの良いと思うところは何か」の問いに対し、「子育ての悩みや不安を職員に相談できる」が 4.5%、「職員が気軽に声をかけてくれる」が 18.9%となっている。「児童館の良いと思うところは何か」の問いに対し、「子育ての悩みや不安を職員に相談できる」は 1.3%、「職員が気軽に声をかけてくれる」が 10.2%となっている。また、「子ども・子育てプラザは児童館に比べて満足できるものか」の問いの理由や「子ども・子育てプラザや児童館（ゆうキッズ）についての意見」に「ちょっとした愚痴や悩みをこぼせる」「初めての子育てで不安な中、職員や同世代ママがありがたい存在」「いつでもウェルカムで受け入れてくれる」「話ができて精神的な負担軽減になっている」「保育園に行き始めたので、夕方や土日利用で

きるのがありがたい」「職員が手厚く対応してくれる」といった意見があることから日常的な職員の関わりの中で、子どもに関する身近な相談への対応がなされていると評価できる。

○　（意見交換会）また、意見交換会では「（もっと）育児や発達についての学びの場になるとよい」「人間関係のトラブルももう少し幅広くとらえてほしい」といった意見があるが、このことは職員スキルの向上を望む声と捉え、子ども・子育てプラザと児童館双方の課題と言える。

○　今回の検証にあたって収集した情報から判断すると、子ども・子育てプラザの「子どもに関する身近な相談」の活動について、役割を果たしていると言える。

○　ただし、現在の活動において、以下の点を課題として指摘することができる。

・　職員の相談スキルのさらなる向上

主な情報　「乳幼児親子の交流の場の提供」に関する部分

利用者の声から

アンケート

○　「乳幼児親子の交流の場の提供」に関する部分が継承されていると思うかの問いに対し、「継承されている」「どちらかといえば継承されている」は合わせて 94.9%で、「どちらかといえば継承されていない」「継承されていない」は合わせて 1.0%となっている。

○　「子ども・子育てプラザを利用する目的は何か」の問いに対し、「月齢・年齢の近い子ども同士の交流」が 51.5%（2 位）、「保護者同士の交流」が 34.2%（3 位）となっている。

○　「子ども・子育てプラザのよいと思われるところ」の問いに対し、「同世代の子を持つ親同士の交流ができる」が 18.2%（7 位）となっている。

○　「子ども・子育てプラザへの満足度」の問いに対して「大変満足」は 55.4%、「満足」は 42.4%で合わせて 97.8%である。

○　「子ども・子育てプラザへの満足度」の問いに対して「同じ月齢の子ども同士で遊べる」「月齢の近い子ども同士の橋渡しをしてくれる」「気軽に立ち寄れ、利用者と交流できる」という意見があった。

○　子ども・子育てプラザと児童館全体に対するご意見の中には「初めての子育てでプラザに通うことで同年齢の子どもとの交流や親同士の交流の大切さを知れた」「職員や他の保護者と話すことで精神的な負担軽減にもなっていてありがたい」という意見が挙げられている。

○　「子ども・子育てプラザへの満足度」の問いに対して「プラザは館内がエリア分け（コンビカーエリア、ねんねエリアなど）され、各部屋のルールでおもちゃが持ち出せず、子ども同士で取り合いをしたり、一緒に分け合って遊ぶ機会が激減した。その結果、一人で遊ぶことが増え、刺激が減りプラザだけで疲れなくなった」との意見があった。

利用者や地域の方の声から

意見交換会

○　「同じ境遇の保護者と悩みごとなどを相談できていい」「同じ世代の同じ悩みを持った方々と相談や話が聞けると、こちらからも話しやすいし解決しやすい」といった意見があった。

○　「プラザは乳幼児にとってはいいが、多世代の交流はしにくい」といった意見があった。

運営状況から

現場職員ヒアリング

○　0歳児、1歳児の保護者にとっては、色々な保護者と交流でき、育児の情報交換ができる場になっている。

○　3 歳児以降、プラザから少し離れた地域に住んでいる利用者からは利用しづらくなったとの声を聞くことがある。

分析・評価

○　（保護者）「乳幼児親子の交流の場の提供」に関する部分が継承されていると思うかの問いに「継承されている」「どちらかといえば継承されている」は合わせて94.9%となっており、「どちらかといえば継承されていない」「継承されていない」は合わせて1.0%となっている。

○　（保護者・運営状況）「子ども・子育てプラザに満足しているか」の問いに対し、「大変満足」「満足」は合わせて97.8%となっており、「不満」「大変不満」合わせて1.3%を大きく上回っている。また、利用状況からも乳幼児の利用者数は5.4倍となっている。

○　（保護者）「子ども・子育てプラザを利用する目的は何か」の問いに対し、「月齢・年齢の近い子ども同士の交流」が51.5%、「保護者同士の交流」が34.2%となっている。「児童館を利用する目的は何か」の問いに対し、「月齢・年齢の近い子ども同士の交流」が65.6%、「保護者同士の交流」が44.6%となっており、児童館と同様に交流を目的に利用されていることがうかがわれる。

○　（保護者）「子ども・子育てプラザは児童館に比べて満足できるものか」の問いの理由や「子ども・子育てプラザや児童館（ゆうキッズ）についての意見」に「同じ月齢の子ども同士で遊べる」「月齢の近い子ども同士の橋渡しをしてくれる」「気軽に立ち寄れ、利用者と交流できる」という意見があった。これらのことからも月齢（年齢）の近い子どもが交流できていること、また保護者も交流できていること、またプラザの職員が利用者同士をつなぐ役割を果たしていると言える。

○　（保護者）また、「職員や他の保護者と話すことで精神的な負担軽減にもなっていてありがたい」といった意見から、子ども・子育てプラザが児童館と同様、子育ての不安や悩みを受け止めて支援する取組が行えていると評価できる。

○　今回の検証にあたって収集した情報から判断すると、「乳幼児親子の交流の場の提

供」の活動について、役割を果たしていると言える。

○　その一方、今後、充実・発展を図っていく上では、以下の点を課題として指摘することができる。

・　保護者同士をつなぐ仕掛け（プログラム等）の更なる工夫

主な情報　「地域の子育て関連情報の提供」に関する部分

利用者の声から

アンケート

○　「地域の子育て関連情報の提供」に関する部分が継承されていると思うかの問いに対し、「継承されている」「どちらかといえば継承されている」は合わせて 90.9%で、「どちらかといえば継承されていない」「継承されていない」（合わせて 0.5%）を大きく上回っている。

○　「子ども・子育てプラザを利用する目的は何か」の問いに対し、「子育てに関する情報の取得」は 12.4%（７位）となっている。

○　「子ども・子育てプラザのよいと思われるところ」の問いに対し、「子育てに関する情報が得られる」は 3.0%（11 位）となっている。

○　「子ども・子育てプラザへの満足度」の問いに対して「大変満足」は 55.4%、「満足」は 42.4%で合わせて 97.8%である。

○　子ども・子育てプラザと児童館全体に対するご意見の中には「地域の情報や保育園の入園申し込みの話をたくさん聞くことができて、ありがたかった」「情報交換など昔のように近所の方にお世話になって子育て…という時代ではない中、プラザがその役目を果たしてくださっている」と挙げられている。

○　子ども・子育てプラザと児童館全体に対するご意見の中には「（児童館で）小学校に上がった時のため、小学生ママの情報が聞けて大きな収穫だった」「インターネットの発達で情報は不要」「ラインやツイッターで挙げて欲しい。」「子育てに限らず、他の施設の情報が欲しい」「保育園活動についての情報が聞きたい」と挙げられている。

運営状況から

現場職員ヒアリング

○　0～1 歳児の保護者にとっては、育児の情報交換ができる場になっている。

○　（妊娠期からの利用について）知らなかった、知っていれば来た、という方も多い。PR が課題と考えている。

分析・評価

○　（保護者）「地域の子育て関連情報の提供」に関する部分が継承されていると思うかの問いに、「継承されている」「どちらかといえば継承されている」は合わせて 90.9%となっており、「どちらかといえば継承されていない」「継承されていない」を合わせた 0.5%を大きく上回っている。

○　（保護者）「子ども・子育てプラザを利用する目的は何か」の問いに対し、「子育てに関する情報の取得」が 12.4%となっているが、「児童館を利用する目的は何か」の問いに対しても 12.1%となっており、同程度の数値となっている。

○　（保護者）また、「子ども・子育てプラザのよいと思われるところ」の問いに対し、「子育てに関する情報が得られる」は 3.0%（11 位）となっているが、「児童館のよいと思われるところ」の問いに対しても、5.1%（10 位）とこの点においても同程度の数値になっている。

○　どちらも高い数字ではないものの、「子ども・子育てプラザは児童館に比べて満足できるものか」の問いの理由や「子ども・子育てプラザや児童館（ゆうキッズ）についての意見」に「地域の情報や保育園の入園申し込みの話をたくさん聞くことができて、ありがたかった」「情報交換など昔のように近所の方にお世話になって子育て…という時代ではない中、プラザがその役目を果たしてくださっている」といった意見があることから、地域の子育て関連情報の提供ができていると評価することができる。

○　（保護者）一方で、「子ども・子育てプラザや児童館（ゆうキッズ）についての意見」には、「インターネットの発達で情報は不要」「ラインやツイッターで挙げて欲しい」「子育てに限らず、他の施設の情報が欲しい」「保育園活動についての情報が聞きたい」といった意見があり、保護者ニーズに合わせた情報提供方法については、双方が有する課題と捉えることができる。

○　（保護者・意見交換会）また「子ども・子育てプラザや児童館（ゆうキッズ）についての意見」には、「(児童館で）小学校に上がった時のため、小学生ママの情報が聞けて大きな収穫だった」という声や、職員からは「(妊娠期からの利用について）知らなかった、知っていれば来た、という方も多い。PR が課題と考えている」との意見がある。乳幼児期以外の層の情報収集と周知についてはさらなる充実発展の余地がある状況と言える。

○　<u>今回の検証にあたって収集した情報から判断すると、子ども・子育てプラザの「地域の子育て関連情報の提供」の活動について、役割を果たしていると言える。</u>

○　ただし、現在の活動において、以下の点を課題として指摘することができる。

・　発達段階に合わせたさらなる情報収集と発信、及び保護者ニーズに合わせた情報提供の工夫

主な情報　「親子で楽しめるプログラムや子育てに関する講座等の実施」に関する部分
利用者の声から アンケート ○　「親子で楽しめるプログラムや子育てに関する講座等の実施」に関する部分が継承されていると思うかの問いに対し、「継承されている」「どちらかといえば継承されている」は合わせて 96.4%で、「どちらかといえば継承されていない」「継承されていない」は合わせて 0.5%となっている。

○　「子ども・子育てプラザを利用する目的は何か」の問いに対し、「年齢別定例プログラム」は 27.2%（4 位）、「季節行事などのイベント」は 21.8%（5 位）、「子育て講座・講習」は 6.4%（9 位）となっている。

○　「子ども・子育てプラザのよいと思われるところ」の問いに対し、「プログラムやイベントがある」は 47.3%（3 位）、「子どもの成長や子育て関する講座や講習がある」が 7.7%（9 位）となっている。

○　「子ども・子育てプラザへの満足度」の問いに対して「大変満足」は 55.4%、「満足」は 42.4%で合わせて 97.8%である。

○　「子ども・子育てプラザへの満足度」の問いに対して「プログラムが充実している」「工作等が工夫されている」「年齢別プログラムが午後にあるため利用しやすい」「夏休みも冬休みも関係なくプログラムがある」「託児付きの講座が良かった」との意見があった。

○　子ども・子育てプラザと児童館全体に対するご意見の中には「忘れがちな季節行事が思い出せる」「無料で利用できてありがたい」「発達に応じた遊び方が学べて良かった」と意見が挙げられている。

利用者や地域の方の声から

意見交換会

○　プログラムにお母さん同士のコミュニケーションを取り入れていてくれてありがたい。

運営状況から

基礎情報

○　乳幼児向けプログラム実施回数（令和 4 年度）
　（ゆうキッズ一施設月平均）13.4 回（185.3 人）
　（プラザ一施設月平均）72.1 回（1,346.4 人）

分析・評価

○　（保護者）「親子で楽しめるプログラムや子育てに関する講座等の実施の提供」に関する部分が継承されていると思うかの問いに、「継承されている」「どちらかといえば継承されている」は合わせて 96.4%となっており、「どちらかといえば継承されていない」「継承されていない」は合わせて 0.5%となっている。

○　（保護者）「子ども・子育てプラザを利用する目的は何か」の問いに対し、「年齢別定例プログラム」は 27.2%、「季節行事などのイベント」は 21.8%、「子育て講座・講習」は 6.4%となっている。

○　「子ども・子育てプラザは児童館に比べて満足できるものか」の問いの理由や「子ども・子育てプラザや児童館（ゆうキッズ）についての意見」に「プログラムが充実している」「工作等が工夫されている」「年齢別プログラムが午後にあるため利用しやすい」「夏休みも冬休みも関係なくプログラムがある」「託児付きの講座が良かった」「忘れがちな季節行事が思い出せる」「無料で利用できてありがたい」

「発達に応じた遊び方が学べて良かった」といった意見がある。

○　（運営状況）乳幼児向けプログラムの実施回数の実績を見ると、児童館と比べ5.4倍となっており、参加者数は7.3倍となっている。

○　プログラム内容の充実を図れているとする意見や午後の時間帯や長期休業中にもプログラム実施が可能な点など高く評価されており、親子で楽しめるプログラムや子育てに関する講座等の実施の提供ができていると評価できる。

○　今回の検証にあたって収集した情報から判断すると、子ども・子育てプラザの「親子で楽しめるプログラムや子育てに関する講座等の実施の提供」の活動について、役割を果たしていると言える。

主な情報　「子育て自主グループの活動支援」に関する部分

利用者の声から

アンケート

○　「子育て自主グループの活動支援の提供」に関する部分が継承されていると思うかの問いに対し、「継承されている」「どちらかといえば継承されている」は合わせて57.9%で、「どちらかといえば継承されていない」「継承されていない」は合わせて2.0%となっている。

○　「子ども・子育てプラザを利用する目的は何か」の問いに対し、「団体利用（部屋の貸し出し）」は0.2%（10位）となっている。

○　「児童館を利用する目的は何か」の問いに対し、「団体利用（部屋の貸し出し）」の回答はなかった。（0.0%）

○　「子ども・子育てプラザのよいと思われるところ」の問いに対し、「子育てグループ、子育てサークルの活動ができる」は2.2%（12位）となっている。

○　「児童館のよいと思われるところ」の問いに対し、「子育てグループ、子育てサークルの活動ができる」は1.3%（11位）となっている。

運営状況から

基礎情報

○　目的内団体利用数：（令和元年度）

プラザ1所1月平均：11.2団体、139.3人

児童館1館1月平均：1.7団体、延19.2人

※　直近はコロナ禍の影響（団体利用の制限）があったため、コロナ禍前のデータを用いた。

※　児童館は、子育て自主グループに貸し出しできる専用の部屋がないため、部屋を貸し出しできる機会（日にちや時間）が限られる。

分析・評価

○　（保護者）「子育て自主グループの活動支援の提供」に関する部分が継承されてい

ると思うかの問いに、「継承されている」「どちらかといえば継承されている」は合わせて 57.9%となっており、「どちらかといえば継承されていない」「継承されていない」は合わせて 2.0%となっているが、「どちらともいえない（わからない含む)」が 40.1%と多く、部屋の貸し出し等の支援を行っていることを多くの利用者に認知されていないことがうかがえる。

○ （保護者）子育て自主グループの活動支援に関する設問として、「子ども・子育てプラザを利用する目的は何か」の問いに対し、「団体利用（部屋の貸し出し)」が 0.2%、「子ども・子育てプラザのよいと思われるところ」の問いに対し、「子育てグループ、子育てサークルの活動ができる」は 2.2%と、極めて少数の回答となっているが、目的内団体利用の実績を見ると児童館の約 7 倍の利用となっている。

○ 今回の検証にあたって収集した情報から判断すると、、子ども･子育てプラザの「子育て自主グループの活動支援の提供」の活動について、役割を果たしていると言える。

○ ただし、現在の活動において、以下の点を課題として指摘することができる。

・ 利用者への周知強化と子育てグループ等の立ち上げを考えている利用者への丁寧なサポート

【視点４】中・高校生の居場所の活動内容はどうか

主な情報
利用者（中・高校生）の声から
コミュニティふらっと永福利用中の中・高校生アンケート
○ 利用の頻度の問いに、「週 1 回以上利用」とする回答が 49.2%となっている。
○ 利用目的の問いに、「中高生専用スペースの利用（学習利用)」が 82.0%、「ラウンジで友人とのおしゃべり」が 32.8%、「図書館（本の貸出）の利用」が 26.2%になっている。
○ ティーンズタイムの取組に関する問に、「大変満足している」が 33.3%、「どちらかといえば満足している」が 41.7%となっている。
○ 中・高校生になってから、児童館を利用したかの問いに、「利用したことがある」が 18.0%、「利用したことがない」が 82.0%となっている。
コミュニティふらっと永福利用中の中・高校生ヒアリング
○ 席を増やしてほしい。
○ 休日に混むので座れないことがある。
○ 卓球ができるのがよい。
○ 児童館は中・高校生が行くところとは思っていない。
○ 児童館に今行っても楽しめるものがない。
○ バスケットボールなど、無料でスポーツができる場所がほしい。
○ 勉強も遊びもできるといった様々なニーズが集まる施設は難しいのでないか。
○ 区内の中高生の居場所は少なく感じる。

○　全ての人を対象とした施設を作るより、利用目的や利用者層を絞ったものを作った方がいいのではないかと思う。

運営状況から

基礎情報（児童館）

○　児童館の利用状況

H28（41 館）一館一日平均利用者数　中学生 2.4 人、高校生 0.5 人

R4（27 館）一館一日平均利用者数　中学生 1.7 人、高校生 0.1 人

現場職員ヒアリング（児童館）

○　児童館の運営状況等として以下の点が挙げられる。

○　学童クラブ利用児童が多く、中・高校生は利用しにくい環境になっている。

○　小学生の利用を主としているため、来館しても遊べるスペースが限定される。

○　ハード面においても、多くの児童館は、遊戯室の天井が低い、ニーズに応えられる設備（バスケットゴールなど）が無いなど、中・高校生の利用を前提とした設備が整っていない。

○　元学童クラブ在籍児など、小学生時に児童館につながりがあった一部の中・高校生などの限定的な利用になっている。

○　地域中・高校生委員会では、企画の立ち上げなど自己実現と自己有用感を高める支援をしているが、委員となる中・高校生は委員会設置児童館近隣の中・高校生に留まっており、広域的な取組になりえていない。

○　福祉的な課題を抱える中・高校生の利用があった場合は、個別に丁寧に対応し、学校、保護者、SSW 等と連携を図りながら支援している。

ゆう杉並の充実の取組

○　「区立中学校への広報活動の強化」や「ゆう杉並の活動（中・高校生運営委員会、利用者懇談会、オフィシャル活動など）の全区的周知」といった充実策を進め、利用者の増加が見られるが、全区的に均一な利用の広がりには至っていない。

分析・評価

○　コミュニティふらっと永福における取組については、コミュニティふらっとと図書館の複合施設としての施設特性が活かされ、「学習」や「友だちとのおしゃべり」といったニーズを持つ中・高校生にとっては、居心地の良い気軽に利用できる居場所となっていることがうかがえる。

○　しかし、特定のニーズを持つ中・高校生の利用が中心であり、施設近隣に居住する中・高校生全般が気軽に集う場とはなっていない。

○　ゆう杉並の充実（利用拡大）については、限界があると言える。一般的には、小学生に比べれば中学生は日常的な行動圏域は広いものの、遠方に居住する中学生にとっては、ゆう杉並は気軽に利用できる環境とはなりにくい。

○　児童館においても、中・高校生の居場所としての機能・役割を十分に果たすことができない状況にある。

○　中・高校生世代（思春期）の特性やニーズを的確に捉えるためには、当事者であ

る中・高校生の声を丁寧に聴く必要がある。

【視点５】地域子育てネットワーク事業（地域連携）の活動内容はどうか

主な情報
運営状況から 子ども・子育てプラザの現状等 ○　児童館再編の取組を実施した地域では、当該小学校区の事務局を子ども・子育てプラザが担い、従前の活動を継承している。 ○　そのため、子ども・子育てプラザによっては、複数の小学校区（最大 3 小学校区）の事務局を同時並行して担う形になっている。 ○　この取組は、子どもを中心として、子どもに関わりのある大人がつながり、子どもも大人も顔の見える関係をつくり、地域全体で子どもの成長と子育てを支える機運を醸成するものである。 ○　児童館では、主たる利用者である小学生（小学校区）のつながりを基本にしながら、ゆうキッズ（乳幼児期）からのつながりや、小学校卒業後の中・高校生になった子どものつながりを含め、0 歳から 18 歳までの子どもと大人を見据えた取組を進めることができた。 ○　しかし、子ども・子育てプラザは、乳幼児親子を主たる利用者としているため、小学生以上の子どもとその関係者（大人）とのつながりが弱く、小学生以上の子どもにかかる関係作りに難しさがある。 ○　現状では、再編前（児童館が事務局であったとき）の職員が配置されていることで、関係作りを維持できていると考えられる部分がある。 ○　また、子ども・子育てプラザが所在する小学校区域以外の小学校区の継承においては、再編前（児童館のとき）のつながりもないことから、その難しさが顕著となっており、放課後等居場所事業と連携しながらネットワークの継承に努めているところである。 現場職員ヒアリング ○　地域を捉える時の地域の考え方は、整理が必要だと思う。地域の区分けもだが、地域連絡会の参加者の線引きも難しい。(関係者が必ずしも小学校区と連動していない。) ○　地域によって、行事に関わってくださっている方が違う。画一的な整理は難しいのではないか。 ○　より良い子どもの居場所を検討する際には、子どもの成長のつながりと地域のつながりを考えた時に小学校区の範囲が地域として適切かなど、整理したい。 地域の方の声から 意見交換会

○　児童館がネットワークの事務局を担っていたときは児童館で地域連絡会などが開催されており、そこに小学生の姿が多くあったことから、子どもの顔が直接見え、やりたいことは何かという生の声が聞けた点は良かった。

○　児童館再編後はネットワークの事務局を子ども・子育てプラザが担い、地域連絡会の開催もプラザでの開催となったことから、当初は、小学生の姿を目にする機会も少なく不安もあったが、小学校内で実施する放課後等居場所事業のプログラムに協力するなど活動の実績ができてくるとともに、その不安も解消されている。

○　再編後は一つの子ども・子育てプラザで受け持つネットワークの地域が多くなり、職員が放課後等居場所事業等の運営支援に出かけていて不在なことも多いなど、忙しそうな印象を持っている。

○　地域の捉え方として中学校区単位が良いと思う。小学校から中学校に上がっても見守ってくれる大人が地域にたくさんいる状況があるのがいい。

分析・評価

○　現状では、児童館再編後の小学校区における地域子育てネットワーク事業を継承していると言えるが、小学生以上の子どもとその関係者（大人）とのつながりが弱い中にあっては、今後も的確に継承していけるかどうかという点が課題として指摘できる。

○　また、複数の小学校区の事務局を受け持つことの難しさが課題として指摘できる。

【視点６】児童館再編に係る意見聴取などの進め方はどうか

主な情報

アンケート

○　放課後等居場所事業及び子ども・子育てプラザのアンケートにおいて、「児童館再編に関する利用者（保護者や子ども）の意見を伺う取組についてどう思うか」の問いに対する回答は次のとおりとなっている。

	十分行われていた	ある程度行われていた	どちらともいえない	やや不十分だった	不十分だった
放課後	6.6%	25.8%	50.8%	8.5%	8.3%
プラザ	9.1%	18.7%	59.4%	7.6%	5.3%

○　利用者の意見を伺う取組について、区に不足している点については、次のような意見があった。

（放課後）

・「いつ行われていたか知らない」
・「一般区民への広報が足りていない」
・「こうしたアンケートは初めて」
・「再編の事を初めて知った」
・「（再編前に）もっと向き合ってほしかった」

（プラザ）

・「小学生の新たな居場所づくりについて、あまり周知されていない」
・「説明会等やっていたことを知らなかった」
・「今後も定期的に利用者の意見を聞く場を設けてほしい」
・「児童館閉鎖ありきで進んでいる」
・「オンライン視聴やアーカイブで後からでも意見できる仕組みがあると嬉しい」

○　放課後等居場所事業及び児童館のアンケートにおいて、「児童館に替えて小学校施設を活用した放課後の居場所づくりを行うことについてどう思うか」の問いに対する回答は次のとおりとなっている。

		賛成	どちらかといえば賛成	どちらともいえない	どちらかといえば反対	反対
放課後	（全体）	53.1%	21.0%	19.1%	4.0%	2.8%
	参加したことがある	56.3%	20.9%	16.1%	4.0%	2.7%
	参加したことがない	38.0%	21.4%	33.2%	4.2%	3.2%
児童館	（全体）	38.9%	23.7%	23.9%	8.8%	4.7%
	利用したことがある	37.8%	23.7%	23.9%	9.6%	5.0%
	利用したことがない	47.7%	23.9%	23.9%	2.3%	2.3%

○　放課後等居場所事業及び児童館、子ども・子育てプラザ、ゆうキッズのアンケートにおいて、「児童館再編の取組を進めることについてどう思うか」の問いに対する回答は次のとおりとなっている。

		賛成	どちらかといえば賛成	どちらともいえない	どちらかといえば反対	反対
放課後	（全体）	27.6%	26.6%	37.7%	4.7%	3.4%
	参加したことがある	28.5%	27.2%	36.3%	4.4%	3.6%
	参加したことがない	23.5%	23.5%	44.3%	6.2%	2.6%
児童館	（全体）	21.1%	21.5%	41.7%	9.2%	6.5%
	利用したことがある	20.3%	21.1%	42.1%	9.6%	6.9%
	利用したことがない	27.6%	25.3%	37.9%	5.7%	3.4%

		賛成	どちらかといえば賛成	どちらともいえない	どちらかといえば反対	反対
プラザ	（全体）	48.1%	23.6%	22.3%	3.5%	2.4%
	ゆうキッズを利用したことがある	43.4%	23.3%	22.8%	6.9%	3.7%
	ゆうキッズを利用したことがない	53.2%	24.0%	21.6%	0.0%	1.2%
ゆうキッズ	（全体）	30.9%	25.9%	25.9%	12.2%	5.0%
	プラザを利用したことがある	31.4%	22.1%	24.4%	15.1%	7.0%
	プラザを利用したことがない	31.3%	29.2%	29.2%	8.3%	2.1%

○　また、「どちらともいえない」とする理由として、次のような意見がある。

（放課後）

・「再編の取組がよくわからない」

・「児童館とプラザの違いがわからない」

（児童館）

・「具体的な違いがわからない」

・「現状で満足しており、与えられた環境を活用していく」

（プラザ）

・「計画の内容をしらない」

・「今までよりいいものが出来ればいいが、わからないため」

（ゆうキッズ）

・「詳しくしらないので」

・「区内にまんべんなく通いやすい立地にあることを願います」

意見交換会

乳幼児の保護者の声から

○　取組の事を知らない人が多い、もっとアピールしたほうが良い。

○　プラザは乳幼児にとってはいいが、多世代交流はしにくい。

○　少し上の世代（ちょっと上の先輩）と出会える空間と場所が必要。

○　小学校の中に居場所があったら安心だが、児童館だったら学校以外の子と交流できる。

小学生の保護者の声から

○　施設再編整備計画を策定する前に、子どもや保護者の声をきいてほしかった。

○　もっと多世代交流ができるような工夫をしてほしい。

○　ゆう杉並は少し距離がある。

○　子どもが求める遊び場は、成長に応じて変わっていく。

中・高校生の声から

○　勉強も遊びもできるといった様々なニーズが集まる施設は難しいのではないか。

○　全ての人を対象とした施設を作るより、利用目的や利用者層を絞ったものを作った方がいいのではないか。

○　中学生になり、遊びに行くときの選択肢に児童館はない。行っても楽しめるものがない。

○　ゆう杉並は遠く、混んでいる印象。近所にも同じような施設を増やしてほしい。

地域の声から

○　子どもの声を聴いてほしい。

○　全ての母親が就労しているわけではなく、家庭にいる母もいるが、その母たちが交流する場が地域になくなってしまうことはデメリット。

○　場があっても人と人の結びつきの場になりえていないと感じる。

分析・評価
○　「児童館再編に関する利用者（保護者や子ども）の意見を伺う取組についてどう思うか」の問いに対し、「十分行われていた」「ある程度行われていた」と答えた割合は「やや不十分だった」「不十分だった」と答えた割合を上回っているものの、「どちらともいえない」と答えた割合が 5 割を超えており、パブリックコメントや説明会等の取組が十分に周知されていなかったことが伺える。 ○　「児童館に替えて小学校施設を活用した放課後の居場所づくりを行うことについてどう思うか」の問いに対し、「賛成」「どちらかといえば賛成」と答えた保護者は、「放課後等居場所事業に参加したことがある人」と「児童館を利用したことがない人」の割合が高く、いずれも 7 割を超えている。 ○　一方、「放課後等居場所事業に参加したことがない人」と「児童館を利用したことがある人」の割合は、いずれも 6 割前後となっている。 ○　「児童館再編の取組を進めることについてどう思うか」の問いに対し、「賛成」「どちらかといえば賛成」と答えた保護者は、前述と同様に、「放課後等居場所事業に参加したことがある人」と「児童館を利用したことがない人」の割合が高くなっているが、「どちらともいえない」と答えた保護者が、放課後等居場所事業の参加の有無や児童館の利用の有無に関わらず 3 割以上あり、児童館再編の取組が十分に理解されていないことが伺える。 ○　また、保護者自身が利用者であるプラザとゆうキッズのアンケートにおいても、「どちらともいえない」と答えた保護者が 2 割以上となっている。 ○　「児童館再編の取組を進めることについて」の意見では、「取組を知らない人が多いのではないか」「計画策定前に意見を聴いてほしかった」「児童館廃止ありきになっている」といった意見がある。

エ　検証結果

①　小学生の居場所【放課後等居場所事業】

○　小学生の居場所として求められるそれぞれの活動に沿った分析･評価を踏まえると、児童館における小学生の一般来館の機能・役割は概ね継承されていると言える。

○　しかしながら、それぞれの活動において、分析・評価で指摘するような課題を有しており、課題解決に向けた取組が求められる。

②　小学生の居場所【学童クラブの校内等設置】

○　分析・評価を踏まえると、学童クラブの設置場所として校内（隣接地含む）は適していると言える。

○　しかしながら、分析・評価で指摘するような校内（隣接地含む）設置であることによる課題を有しており、課題解決に向けた取組が求められる。

③　乳幼児親子の居場所【子ども・子育てプラザ】

○　乳幼児親子の居場所として求められるそれぞれの活動に沿った分析・評価を踏まえ

ると、児童館における乳幼児親子の居場所の機能・役割は継承されていると言える。

○　しかしながら、一部の活動において、分析・評価で指摘するような課題を有しており、課題解決に向けた取組が求められる。

○　また、子ども・子育てプラザは、乳幼児親子の居場所の機能をより発展させるものとして、子ども・子育て支援法に基づく地域子育て支援事業（地域子育て支援拠点事業、利用者支援事業等）を行うこととしており、その充実を図ることが望まれる。

④　中・高校生の居場所【中・高校生の新たな居場所づくり、ゆう杉並の充実】

○　分析・評価を踏まえると、中・高校生の居場所の機能・役割は、児童館、ゆう杉並、中・高校生の新たな居場所づくりの取組のそれぞれで課題を有しており、今後のより良い子どもの居場所のあり方の検討において、改めて中・高校生の居場所づくりをどのようにしていくか検討する必要があると言える。

⑤　地域子育てネットワーク事業

○　分析・評価を踏まえると、現状では、子ども・子育てプラザにおいて、児童館再編後の小学校区における地域子育てネットワーク事業を継承できていると言える。

○　一方、分析・評価で指摘するような課題があることから、今後のより良い子どもの居場所のあり方の検討にあわせて、既存のネットワークの対象範囲（小学校区単位の範囲）の考え方も含め、的確に地域のネットワーク機能を維持していくための方策を検討する必要があると言える。

⑥　児童館再編に係る意見聴取などの進め方

○　児童館再編の取組自体に対しては、概ね肯定的な意見が多いものの、児童館再編に関する利用者意見の聴取が十分だったかという問いに対して、「どちらともいえない」とする意見が多いことからすると、事前の意見聴取や、計画策定プロセスにおける住民参画の取組や、取組内容の周知の取組が十分ではなかったと言える。

○　この点を踏まえ、今後のより良い子どもの居場所のあり方の検討に当たっては、検討のプロセスにおいて適時周知を十分に行うとともに、居場所を利用する当事者である子どもをはじめ、保護者や子どもを取り巻く大人の意見を丁寧に聴取しながら地域住民と共に進めていく必要がある。

⑦　まとめ

○　区では、児童館施設の老朽化や区民ニーズの変化に対応するため、平成 26（2014）年度以降、それまで児童館が有してきた役割や機能を、小学校内で実施する放課後等居場所事業や子ども・子育てプラザ等で引き継ぎ、さらに充実・発展を図ろうとする取組を進めてきた。今回、これらの事業の利用者を対象としたアンケートなどで得たエビデンスと、子どもを含めた利用者や従事者の生の声などを基に検証することによって、この間の児童館再編の取組で得られた到達点を明らかにするとともに、再編を進めてきたことによって生じている課題を明示すべく、取組を進めてきた。

○　一つ目の検証項目の「児童館の機能・役割が継承・発展されているか」については、アンケート結果や意見交換会、子ども会議での意見、この間の運営状況等を踏まえた結果、児童館の基本的な機能・役割は、中・高校生の居場所機能を除き、放課後等居場所事業や子ども・子育てプラザといった居場所で、概ね引き継がれていることが確認できた一方で、児童館が有していた役割を、今後さらに充実・発展させていく観点からは、学校になじめない子どもへの対応をはじめとした様々な課題があること、また、再編により作られた新たな居場所においては維持することが困難な「児童館の特性」があることも確認できた。

○　また、この検証作業を通じて、居場所を利用する当事者である子どもや保護者には、その置かれた状況や成長段階等に応じて、多様なニーズがあり、居場所に求める内容も様々であることを、改めて確認することができたところである。

○　国では、令和５（2023）年４月に新たに「こども家庭庁」が発足し、こどもまんなか社会に向けた取組が加速化しているほか、令和５（2023）年中を目途に、「(仮称)こどもの居場所づくりに関する指針」を策定することとされている。

○　区の基本構想で定める子ども分野の将来像「すべての子どもが、自分らしく生きていくことができるまち」を実現していくためには、こうした国の動向も注視しつつ、すべての子どもが成長段階に応じて安心して過ごせる居場所づくりを進めていくことが必要不可欠である。

○　こうした認識に立ち、区では、国が年内に策定予定の指針の内容や、区が子どもの権利擁護の推進に向けて必要な事項を審議するために設置した附属機関「杉並区子どもの権利擁護に関する審議会」での議論の状況も踏まえながら、令和６（2024）年度に向けて、様々な困難を抱える子どもを含むすべての子どもを対象とした、より良い子どもの居場所のあり方について検討を行うこととしているところである。

○　今回の検証により明らかとなった課題や、改めて検討する必要がある中・高校生の居場所づくり、新たな居場所には見られない児童館ならではの特性については、この検討の過程に引き継ぎ、これらの課題の解決策も含め、子どもの居場所をどのように展開していくべきか等を検討していくこととする。

○　また、二つ目の検証項目の「児童館再編の取組の進め方」については、地域の子どもたちの豊かな遊びを保障する大切な場として、さらには地域の子育てネットワークの核として重要な役割を担ってきた児童館の再編整備を計画化するにあたって、その取組内容の周知や意見聴取のプロセスに課題があったことも明らかとなった。

○　令和５（2023）年４月から施行された「こども基本法」では、地方公共団体が子ども施策を策定するに当たっては、子どもや子どもを養育する者等の声を反映させるために必要な措置を講ずるものとすることが規定されており、区においては、子どもに関連する施策を決定していくに際は、これまでにも増して、当事者である子どもの声を反映することが重要である。

○　こうした点を踏まえ、今後のより良い子どもの居場所づくりの検討に当たっては、当事者である子どもをはじめ、その保護者や子どもを取り巻く大人、地域で子育て

支援を行っている団体などの意見を丁寧に聴取することはもとより、これからの子どもの居場所のあるべき姿を、子どもや地域住民と行政が手を携え、共に形作っていく、という視点に基づき、幅広い区民参画を得ながら検討を行っていくことが必要である。

（参考資料）

杉並区立児童館運営指針

平成 20 年 2 月 14 日
19 杉並第 74615 号

１．運営指針の目的

この指針は、杉並区立児童青少年センター及び児童館事業運営要綱で定めた児童館事業を運営するうえでの、基本姿勢及び運営の柱と基本方針を明らかにし、事業の充実を図ることを目的とする。

２．基本姿勢

（子どもの居場所・成長支援）

（１）子どもが安心して安全に過ごせる居場所とする。また、子どもが主役の遊びや活動を通して、子どもたちが自主性・社会性・創造性を培い、自らの可能性を広げ健やかに成長していけるよう支援する。

（子育て支援）

（２）子どもを育てるすべての家庭が、楽しく、充実した子育てができるように、保護者同士の出会いと交流を進める。子育ての不安や悩みを受け止め、保護者が子育ての力をつけていけるよう支援する。

（子ども・子育てを支えるネットワークづくり）

（３）子どもと子育てをあたたかく見守り支える地域を創るため、地域における子育て支援の拠点として、子どもに関わる個人・団体・ＮＰＯ・行政機関等と課題を共有し連携を広げ、地域のネットワークづくりを進める。

３．運営の柱と基本方針

（１）小学生の身近な居場所とし、多様な遊びや活動を通して成長を支援する。

① 安心安全で身近な居場所として、多数の子どもに利用されるよう努める。
② 多様な遊びや活動を通して、友達や大人と出会い、楽しくふれあう機会を提供する。
③ 生活体験、社会体験、自然体験など、豊かな体験の機会を提供する。
④ 子どもの意見を尊重し、子どもの参画による活動を進める。
⑤ 配慮の必要な子どもへは、保護者や学校、関係機関と連携し対応する。

（２）障害のある子どもの利用を促進し、子ども同士の理解と交流を進める。

① 障害のある子どもが、日常の利用やプログラムへの参加がしやすいよう配慮する。
② 障害児利用促進重点館を中心に、障害のある子どももない子どもも一緒に楽しみ、交流できるプログラムを実施する。

（３）中・高校生の利用者をうけとめるとともに、自主的な活動を支援する。

① 中・高校生の利用者をうけとめ、居場所としての役割を果たす。
② 中・高校生がプレイリーダーやボランティアの役割を担ったり、乳幼児や地域の大人と交流したりするなど、多様な社会体験の機会を提供する。
③ 地域児童館を中心に、中・高校生の意見を取り入れた居場所作り、自主的活動の支援、地域における社会参画を進める。

（４）乳幼児親子の身近な居場所とし、子育てを支援する。

① 乳幼児親子がくつろげる居場所としての環境を整える。
② 保護者の子育てへの思いや不安を受け止め、身近な相談場所として機能する。
③ 親子で楽しめるプログラムを実施し、保護者・子ども同士の交流とつながり作りを進める。
④ 子育て情報や学びの機会を提供し、保護者が子育ての力をつけていけるよう支援する。
⑤ 保護者の自主的な活動やグループ作りを支援する。

（５）地域の子育て支援の拠点として、子ども家庭支援やネットワークづくりに取り組む。

① 子どもに関する地域の身近な相談機関として機能する。
② 困難を抱える子どもや家庭の発見に努め関係機関と連携して支援する。
③ 児童館事業を、利用者、ボランティア、関係団体、子育て支援グループ、ＮＰＯ等の参加と協働で進める。
④ 子どもと子育てに関わる区民・ＮＰＯ等の自主的な活動を支援する。
⑤ 地域子育てネットワーク事業を、幅広い区民の参画で進め、子どもと子育てを支える地域のつながりを創り出す。

（６）学童クラブ事業を、杉並区学童クラブ運営指針をもとに、登録児童数や施設状況など各学童クラブの実情に合わせて進める。

（７）危機管理についての意識を高め、日常的に子どもを守り、安全な環境を確保していくとともに、災害や非常時を想定した訓練、個人情報の厳正な管理を行う。また子どもの安全を守るための、地域の関係機関・団体との情報共有や連携した取り組みを進める。